

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	慶應義塾大学
設置者名	慶應義塾

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部		夜・通信			17	17	13	
		夜・ <del>通信</del>	20		16	36	13	
経済学部		夜・通信			24	24	13	
		夜・ <del>通信</del>	20		18	38	13	
法学部		夜・通信			130	130	13	
		夜・ <del>通信</del>	20		26	46	13	
商学部		夜・通信			42	42	13	
医学部		夜・通信			70	70	19	
理工学部		夜・通信			43	43	13	
総合政策学部		夜・通信			26	26	13	
環境情報学部		夜・通信			28	28	13	
看護医療学部		夜・通信			58	58	13	
薬学部	薬学科	夜・通信			35.5	35.5	19	
	薬科学科	夜・通信			23	23	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>通学課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>慶應義塾 Web サイト「在学生」→「塾生サイト」→「所属キャンパス」→「所属学部」→「時間割・シラバス・履修」→「履修案内・講義要綱・時間割」ページから、pdf の「実務経験のある教員等による授業科目一覧表」にリンクを張り公表している。</li> </ul> <p>例) 三田キャンパス <a href="https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/registration/">https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/registration/</a></p> <p>通信教育課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>慶應義塾通信教育課程 Web サイト「学部」→「講義要綱(シラバス)」→「[2020]以降はこちら」からアクセスできる各科目のシラバス内に実務経験のある教員等による授業情報を公表している。</li> </ul> <p><a href="https://slbs.tsushin.keio.ac.jp/">https://slbs.tsushin.keio.ac.jp/</a></p>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	慶應義塾大学
設置者名	慶應義塾

1. 理事（役員）名簿の公表方法

慶應義塾 web サイト「理事・監事・会計監査人一覧」で公表 <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/organization/leadership-2.html">https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/organization/leadership-2.html</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社/相談役	2025. 5. 27 ～ 4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学務重要事項、資産の取得・処分、事業計画、決算等のチェックおよび決裁
非常勤	株式会社/特別顧問	2025. 5. 27 ～ 4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学務重要事項、資産の取得・処分、事業計画、決算等のチェックおよび決裁
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	慶應義塾大学
設置者名	慶應義塾

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>通学課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年 10 月頃に次年度の授業担当者が決定するので、11 月にシラバスの作成を依頼。翌年 1 月から 3 月にかけて編集し、授業科目の内容・目的・方法・授業計画ならびに成績評価方法などについて『シラバス (講義要綱)』として 3 月中旬を目途に公表している。</li> <li>・閲覧方法             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 在学生は Web の塾生サイトで ID とパスワードでログインし閲覧する。「塾生サイト」→「所属キャンパス」→「所属学部」→「時間割・シラバス・履修」→「履修案内・講義要綱・時間割」ページ</li> <li>例) 三田キャンパス</li> <li><a href="https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/registration/">https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/registration/</a></li> <li>② 一般向けには、表示項目の一部を除き公表している。</li> <li><a href="https://gslbs.adst.keio.ac.jp/">https://gslbs.adst.keio.ac.jp/</a></li> </ul> </li> </ul> <p>通信教育課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年、11 月に次年度の授業担当者が決定し、12 月にシラバスの作成を依頼。翌年 1 月から 2 月にかけて編集し、「講義要綱 (シラバス)」として 3 月上旬に公表している。</li> <li>・閲覧方法</li> </ul> <p>一般および在学生向けに、慶應義塾通信教育課程 Web サイト (<a href="https://slbs.tsushin.keio.ac.jp/">https://slbs.tsushin.keio.ac.jp/</a>) で公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

通学課程：

- ・ 授業科目の評価は試験やレポートの提出を課し、成績は、S・A・B・C・Dの5段階評価を持って示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与えている。また、学位認定については、履修科目で得た単位数に卒業論文の審査などにより取得した単位を加え、各学部学則に定める卒業必要単位数の充足をもって、各学部教授会が認定している。

通信教育課程：

- ・ 通信授業（テキスト）  
学生は各科目のテキストを学習し、レポートを提出した学生は指定の時期に科目試験を受験する。科目試験の成績は、S・A・B・C・Dの5段階評価をもって示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与える。
- ・ 面接授業（スクーリング）  
学生は履修申告した面接授業に出席し、履修した科目は指定の時期にスクーリング試験を受験する。スクーリングの成績は、S・A・B・C・Dの5段階評価をもって示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与える。
- ・ 卒業試験

卒業試験は卒業論文審査と総合面接試問によるものとする。学生は必要な単位を修得した上で、卒業論文を指導教員に提出し、指導教員の審査を受ける。教員から許可された学生は、指定の日時に主査・副査による総合面接試問を受ける。諮問の結果を教授会に諮る。S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した場合には所定の単位を与える。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

通学課程：

- 2017年度からGPA制度を導入し、5段階評価の評語とその基準点数およびGPAの算出方法、対象となる科目および併せて導入した履修登録取消制度を、学生向けのWebサイトに掲載している。

「塾生サイト」→「所属キャンパス」→「所属学部」→(項目)「時間割・シラバス・履修」と(項目)「学業成績表」

例) 三田キャンパス 文学部

<https://www.students.keio.ac.jp/mt/flet/>

- GPA算出式

Grade Point S:4.0, A:3.0, B:2.0, C:1.0, D:0.0

$$\frac{(\text{Grade Points} \times \text{単位数})\text{の総和}}{\text{総履修単位数}}$$

通信教育課程：

2017年度からGPA制度を導入し、5段階評価のグレード別のポイント、GPAの算出方法、対象となる科目および併せて導入した履修登録取消制度を、全学生に配布する『塾生ガイド』に掲載している。

- GPA算出式

各科目の5段階評価を4.0から0.0までのGP (Grade Point) (S:4.0、A:3.0、B:2.0、C:1.0、D:0.0) に置き換えて科目単位数を掛け、その総和を科目単位数の合計で割った平均点(小数点二桁以下四捨五入)で、成績を数値で表す。

- 適用される学生

入学年度が2017年度以降の正科生。

- 対象科目

通信授業(レポート合格かつ2017年度以降に科目試験を受験した科目)

面接授業(体育スクーリング、実験スクーリング含む)

メディア授業(E-スクーリング)、放送授業(2022年度まで開講)

卒業試験(卒業論文審査、総合面接試問)の結果

- 履修登録取消制度

定められた履修登録取消期間に手続を行った場合、取り消した科目はGPAの対象とはならない。

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

通学課程：

「塾生サイト」→「所属キャンパス」→「所属学部」→「学業成績表」→「成績発表」

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/grade/>

通信教育課程：

『塾生ガイド』に掲載している。

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p>	
<p>通学課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業の認定方針は、学部毎に学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）を定め、Web サイトならびに学生に配布している学部学則にて公表している。卒業要件（履修科目や単位数など）は、学生向けの履修案内（Web サイトで PDF でも公表）と学部学則で学生に公表している。</li> </ul> <p>通信教育課程：</p> <p>各学部のディプロマポリシーは以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業の認定方針は学部毎に学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）を定め、Web サイトにて公表している。卒業要件（履修科目や卒業単位数など）は『塾生ガイド』にて学生に公表している。</li> </ul>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>通学課程：</p> <p>慶應義塾Webサイト「慶應義塾について」→「情報公開」→「3つの方針（学位授与・教育課程・入学者受入）」で公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/</a></p> <p>通信教育課程：</p> <p>以下の Web サイトにて公表している。</p> <p>文：  <a href="https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html">https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html</a></p> <p>経済：  <a href="https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html">https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html</a></p> <p>法：  <a href="https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html">https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html</a></p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	慶應義塾大学
設置者名	慶應義塾

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	慶應義塾 web「情報公開」ページ「財務状況」にて公表している。 <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/">https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/</a>
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	慶應義塾 web「情報公開」ページ「事業報告書」にて公表している。 <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/">https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/</a>
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 慶應義塾 web「情報公開」ページ「大学点検・評価」にて公表している。 <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/">https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/</a>
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:
-------

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法：慶應義塾 web「情報公開」ページにて公表している。 <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf">https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf</a> )
(概要) 本塾建学の精神に則り、哲学、史学、文学、図書館・情報学、人間関係学にかかわる理論と応用を研究教授し、文化の創造と社会の発展に資する幅広い教養と深い学識および知的・倫理的・実践的能力を培うことを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾 web「各学部における 3 つの方針」ページにて公表している。 <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a> )
(概要) 文学部（人文社会学科）は、本塾建学の精神に則り、哲学、史学、文学、図書館・情報学、人間関係学にかかわる理論と応用を研究教授し、文化の創造と社会の発展に資する幅広い教養と深い学識および知的・倫理的・実践的能力を有した人物を育成する。すなわち「文（ことば）」にかかわる広大な領域を対象として、創立者福澤諭吉の「実学の精神」に基づき、実証的に真理を解明し問題を解決してゆく科学的な姿勢と知識および能力を培うことをめざす。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：慶應義塾 web「各学部における 3 つの方針」ページにて公表している。 <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a> )
(概要) 文学部（人文社会学科）は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実施するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を編成する。 文学部の研究教育の対象は、人文学、社会科学に限定されるものではなく、自然科学や学際的な分野も包含する幅広さと多様性を特徴とする。したがって文学部の教育課程も多様な科目や分野によって編成される。特に総合教育科目、必修語学科目においては、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能、着実な言語運用能力の形成をめざした科目編成や授業運営を実施する。また専門教育科目においては、所属する各専攻にかかわる基礎的な知識を基盤として、次第に高度な専門的学識や技能を習得することができるような体系的な教育課程を編成・実施する。さらに専攻外の専門教育科目等の履修も可能とし、学生が自ら定めた研究・学習課題をさまざまな授業科目や学習機会によって達成できるような教育課程を編成・実施する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：慶應義塾 web「各学部における 3 つの方針」ページにて公表している。 <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a> )

<p>(概要)</p> <p>文学部では次のような資質・能力を有する学生を求めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心</li> <li>● 先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語・中国語）</li> <li>● 与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力</li> <li>● 現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）</li> </ul> <p>これらは、文学部が設置しているすべての専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）に共通しており、入学後、それぞれの専攻における独自のカリキュラムに従って、専門的な知識や能力を身につけてゆく。したがって、文学部に入学する者は、これらの専攻が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有することもまた必要である。</p> <p>以上の方針に基づき、一般選抜を実施する。さらに、この方針に沿いつつ、より多様な人材を入学させるための自主応募制による推薦入試（自己推薦入試）や、帰国生入試や留学生入試を行う。</p> <p>具体的には、一般選抜は、外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。自主応募制による推薦入試は、高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な考査によって選抜する。そのほか、帰国生入試と留学生入試では、学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。</p>
---

<p>学部等名 経済学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf">https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>経済学部の教育目的は、慶應義塾の建学の精神を踏まえつつ、各界で指導的役割を担う次世代の人材を養成することである。</p>
<p>卒業又は修了認定に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>一般教養、語学ならびに経済学全般に関する広い知識・理解力と経済学の特定専門分野に関する深い考察力を兼ね備えた者に学位を授与する。経済学を一つの軸とする教養を備え、変化する社会を適切に認識し、日本社会をリードすると同時に世界で活躍できる能力を証するものとして学位を授与することを方針としている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>総合教育科目、外国語科目、経済学に関する基礎教育科目・専門教育科目などを、バランス良く各学年に配置し、学年制を取る。4年間で126単位以上の取得を課す。また、一、二年時の自由研究セミナー、教養系を中心としたセミナー（研究プロジェクト）、経済学専門のセミナー、英語による経済学履修コース（Professional Career Program）など少人数教育の充実につとめている。さらに、大学全体の国際交換協定</p>

とは別に、学部独自の交換協定を締結し、在学中における海外大学での単位取得を奨励している。
<p>入学者の受入れに関する方針  (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要)  社会に積極的に関与する強い意志を持ち、自らの智力によって変化する社会を把握しようという気概をもった人間を求めている。また、学問的基礎に基づいて厳密に考える能力にすぐれると同時に、バランス感覚に富み、多様なものの見方を尊重できる人材の育成を目指している。このような知性により社会の指導的役割を担える潜在力を備えた多彩な学生を受け入れたい。</p>
<p>学部等名 法学部</p>
<p>教育研究上の目的  (公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf">https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf</a>)</p>
<p>(概要)  法学部は、本塾建学の精神に則り、国際的な視野に立ちつつ新しい社会を創造し未来を先導する人材を育成すべく、法学および政治学の専門分野のみならず幅広い教養について教授研究することを目的とする。</p> <p>法律学科  法学部法律学科は、社会現象を法的な視点から捉え、柔軟かつ的確な判断のできる法的思考力を有する人材の育成を目的とする。</p> <p>政治学科  法学部政治学科は、現代社会および歴史上の諸問題を政治学的な視点からの確に分析し、創造的かつ総合的に判断する能力を有する人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業又は修了認定に関する方針  (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要)  法学部では、学部の教育目標（カリキュラムポリシー）に基づき編成された教育課程において、所定の年限在学し、学則第80条に定める外国語科目単位、第81条に定める人文科学、自然科学、数学・統計・情報処理および社会科学科目の所定の単位を修得し、かつ第82条の定める法律学科法律学科目ないしは政治学科政治学科目のなかから所定の単位を修得した者に、学士の学位を与える。個々の科目の単位認定にあたっては、厳格な成績評価を行い、各々の科目に関する基礎的知識や技法が着実に修得されているか否かに留意するものとする。  学生は、法律、政治両学科で教授される専門的知見の修得はもとより、外国語や世界の諸事情に通じ、人文・社会・自然科学的教養を身につけた「独立自尊」の人として、国内外を問わず先導者としての社会貢献を果たすことが期待される。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針  (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要)  法律学科では、将来の法律家を育てることにとどまらず、社会現象を法律的にとらえ、論理的に思考する能力、すなわちリーガルマインドの涵養を目標とする。政治学</p>

科では、将来の政治家や公務員を育てることにとどまらず、個別の行為や事象を社会全体との関連で考察し、適切に位置づける能力の涵養を目標とする。さらに法学部では、両学科に共通する外国語・人文科学・社会科学・自然科学などの総合科目にも重点を置く。法学部の教育は、この3本の柱が有機的に統合されることで構成されている。

現代社会において求められる人間像は、十分な専門的知見を有しながら、創造的な思考能力や個性を持ち、さらに総合的な政策能力を併せもつ主体であろう。それは、ジェネラリストでありつつ高い専門的素養を備えている、あるいはスペシャリストでありながら総合的な知識と教養を有する人である。そのような人物の養成を目指し、法学部のカリキュラムは以下の方針のもとに組まれている。

- (1) 専門的知見を身につけ、法律学、政治学のエキスパートとして通用する学生を育てる。

法律学科、政治学科のカリキュラムは、それぞれ充実した専門科目群を擁している。専門科目の履修は1年次から始められ、「導入」から「応用」へと段階を踏んで学べるように構成されている。また、多彩な科目群から、各人の興味と関心に応じた履修選択も可能である。さらに、ゼミナールや演習科目など少人数教育が充実している。

- (2) 幅広い領域の知見を有し、主専攻に加えて第2の専門を持つ個性派学生を育てる。

法律学や政治学の専門的知見のみならず、人文科学・社会科学・自然科学の広範にわたる知見を得て、総合的・融合的な学問・思考を創造できるよう、総合教育科目が多彩に展開されている。また、法律学・政治学以外の学問を深く研究し、これを第2の専門とする個性派学生の育成にも努めており、そのために設けられた「副専攻制度」は、人文科学や自然科学の一領域について、講義科目や演習科目を4年次に至るまで計画的・段階的に履修し、究めることのできる法学部独自のプログラムである。

- (3) 外国語に強い国際派学生を育てる。

法学部では、言語と文化の多様性に対応するべく、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、朝鮮語、アラビア語と多彩な外国語科目を揃え、うち2つを必修外国語として履修するものとしている。とくに徹底して外国語を学びたい学生には、インテンシブコースが用意されている。さらに意欲があれば第3外国語を学ぶことも可能である。

- (4) 大学院での学びにつながる研究能力や高度の思考力・分析力を有する学生を育てる。

法律学、政治学に関わる専門的分野を究めようとする学生のために、「その先」を目指すカリキュラムが用意されている。たとえば、大学院法学研究科設置の一定の科目の先取り履修を認め、進学後に大学院の単位として認定する制度を設けている。また、「法曹コース」は、一定の要件を満たすことにより、学部を3年で卒業し、連携する法科大学院への進学を可能とするものである。

#### 入学者の受入れに関する方針

(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  
<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html>)

#### (概要)

法学部では、慶應義塾の建学の精神を理解し、国際的な視野に立ちつつ、新しい社会を創造し先導する気概を持つ学生を求めている。入学する学生には、法学部の教育目標(カリキュラムポリシー)をよく理解し、そのカリキュラムの下で学習するために必要な学力、能力、そして意欲を有していることが求められる。その具体的な審査方法は、一般選抜、帰国生入試、留学生入試、指定高校による推薦入試、そして自己推薦形式でのFIT入試と多様であり、それぞれに制度の趣旨は異なるが、それらに共通する目標は、一定の知識水準を有し、その上で知的好奇心に溢れ、かつ個性豊かな学生を選考することである。

学部等名 商学部
<p>教育研究上の目的  (公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf">https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf</a>)</p>
<p>(概要)  商学部は、福澤諭吉の実学の精神を「商学」の分野において継承し、社会の変化に対応する形で発展させていくことを教育と研究の基本とする。教育においては、この基本を踏まえ、現実社会の抱える問題を自ら発見し、科学的思考と商学の専門知識を用いて解決案を提示し、実行する能力を養うことで、未来社会に貢献する人材を育てることを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了認定に関する方針  (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要)  学則で定める卒業に必要な単位数を取得することが学士号授与の要件となる。また、卒業までに、経済や社会の現象についての実証的な観察・分析を通じて現代の社会が抱える問題を自らの力で発見し、解決案を提示し、実行するための能力、および高い倫理観と責任感を兼ね備え、社会の発展に貢献するリーダーとしての資質を身につけることが重視される。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針  (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要)  商学部では、4年間の教育課程を通じて、現実社会における諸問題の発見、仮説の構築と検証、主張の発信を自立的に遂行できる力を養成することを目標とする。この目標を達成するために、総合教育科目、外国語科目、専門科目を系統的に配置している。「商学」を現代の産業社会全体を対象とする理論的かつ実証的な研究という広い意味でとらえ、商業学、会計学、経営学、産業・経済の知識を体系的・有機的に学ぶ。また、総合教育科目や外国語科目では、社会における様々な問題に関心を持ち、自らの言葉で考えを世界に向けて伝えるための洞察力、情報発信力を養う。各科目の成績は、試験、レポート、クラスへの参加・寄与など、シラバスに記載した方法で評価する。カリキュラムに沿った体系的な学修のため、学年ごとに進級条件も課す。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針  (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要)  商学部では、産業社会の抱える問題を自ら発見し、説得力ある解決策を導き、発信する能力を養うことにより、国際社会に貢献できる人材の育成を目指している。入学者の選抜もこの方針に沿って実施されており、社会に対する強い関心、論理的な思考能力、資料を読み解く力、英語をはじめとする基礎学力をとくに重視している。</p>

学部等名 医学部
<p>教育研究上の目的  (公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf">https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf</a>)</p>
<p>(概要)  独立自尊の気風を養い、豊かな人間性と高い倫理観を持ち、患者中心の医療を実践し、世界の医学を先導する人材を育成する。</p>

<p>卒業又は修了認定に関する方針  (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要)  医学部の使命・教育目標に基づき、カリキュラム・ポリシーに沿った全科目（外国語科目、人文・社会科学科目、基礎科学必修科目、医学基礎教育科目から構成される「基礎教育科目」、基礎・社会医学系科目、自主学習、臨床医学系科目から構成される「専門教育科目」）を履修し、学則で定めた卒業条件を満たし、さらに以下に定める8つの卒業時コンピテンスを修得した学生に学士（医学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>I. プロフェッショナルリズム</li> <li>II. 医学知識</li> <li>III. 診療の実践</li> <li>IV. コミュニケーション</li> <li>V. チーム医療の実践</li> <li>VI. 医療・福祉への貢献</li> <li>VII. 科学的探究</li> <li>VIII. 国際医療人としての資質</li> </ol> <p>※「自主学習」とは、研究室に配属され、教員とマンツーマンで研究活動をおこなう教育プログラム。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針  (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>医学部の使命・教育目標に基づき、「自律的学習能力」「科学的思考能力」「医療プロフェッショナルリズム」「基本的臨床能力」の修得を基本方針として、基礎教育科目、専門教育科目（基礎・社会医学系科目、自主学習、臨床医学系科目）の有機的連携を図り、8つの卒業時コンピテンスを修得するための学部カリキュラムを編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>I. プロフェッショナルリズム</li> <li>II. 医学知識</li> <li>III. 診療の実践</li> <li>IV. コミュニケーション</li> <li>V. チーム医療の実践</li> <li>VI. 医療・福祉への貢献</li> <li>VII. 科学的探究</li> <li>VIII. 国際医療人としての資質</li> </ol>
<p>入学者の受入れに関する方針  (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要)  本学医学部は、本学の使命「独立自尊と実学（サイエンス）の精神に基づき、患者中心の医療を実践し、世界の医学を先導する」に基づき、「基礎臨床一体型の医学・医療の実現」の理念の下、人材を育成してきた。</p> <p>本学医学部は、この使命・建学の精神を理解し、次世代を先導し、豊かな人間性と深い知性を併せ持つ医学生を強く求める。そのために、創立者 福澤諭吉の「一身独立（自ら考え、実践する）」の教えを理解し、世界に雄飛し、患者中心の医療を実現できるphysician scientist（科学的思考力を備えた医師）となりうる医療人としての資質、使命感、学習意欲を重視し、卒業時コンピテンスを修得しうる人材を選抜する。</p> <p>入学試験での評価は、次のように行う。</p>

基礎学力：学科筆記試験（数学、理科、英語。詳細は入試要項参照のこと）、面接、および小論文により評価する。

学習意欲・態度、使命の理解、倫理感：調査書、面接、小論文により評価する。

読解力・文章能力：学科筆記試験、小論文により評価する。

自らの考え方を他者に説明する能力、コミュニケーション能力：面接、小論文により評価する。

#### 【入学までに身につけておくべきこと】

医学部では、幅広い知識や技能を修得し、実践することが求められる。また、卒業後は、医療人として、生涯にわたって学び続けることが求められる。そのために、大学に入学するまでに、次の教科・科目についての学力とともに、自ら学ぶ学習態度を身につけることが期待される。

数学：数量的な概念の理解、論理的思考力、計算力

理科：物理、化学、生物など自然科学についての十分な理解と科学的思考力

英語：英語の読解力、表現力、コミュニケーション能力

特別活動および課外活動：主体性、協調性、共感・思いやり・気遣い、利他性(奉仕の心)、倫理感、責任感、洞察力など

学部等名 理工学部

教育研究上の目的

(公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf>)

(概要)

理工学の研究教授を通して、豊かな創造力、確かな研究・開発能力、幅広い国際教養を修得した先導者を育成することを目的とする。

機械工学科

エンジニアに求められるセンス

これからの社会は、「メカニクス」と「情報」によって支えられると考えている。メカニクスとは、「質量を持つ物体およびエネルギー」を対象とする学問分野の総称で、実在するモノを人間社会に役立てることを追求する工学(エンジニアリング)の原点である。地球環境や人間社会と調和する科学技術の確立が、これからのエンジニアには求められている。時代を超えたベーシックサイエンスと実践的カリキュラムこれからの科学技術は、いままでとは異なった発想が必要である。そのため、将来のエンジニアとして活躍が期待されるみなさんにぜひ身につけてほしいことは、「メカニクスの基本」と「自由な発想」の融合である。機械工学科のカリキュラムでは、メカニクスの本質を学ぶ「力学の基礎」科目と、学生個々の夢とアイデアを実現する手段を学ぶ実技・実習科目を用意し、基礎力・探究心・創造性に溢れる人材の育成を目指している。

電気情報工学科

新たな技術革新を生み出す技術者、研究者の養成

電気情報工学は、電気と光を情報処理・伝達的手段やエネルギー源として工学技術に応用する学問分野である。電気情報工学の発展は日進月歩で、かつ学際領域へも幅広く展開されているため、最先端であっても表層的な知識では、すぐに役に立たなくなってしまう。電気情報工学科では、新たな先端技術を切り拓く技術者、研究者を養成するためには、体系化された基礎学問をきちんと修得することが重要であるという考えに基づき、数学、電磁気学、量子力学、物性工学、電気・電子回路、

情報工学、制御工学といった電気情報工学に関係する学問体系をきちんと身につけることを教育の目的としている。さらに、半導体デバイス、集積回路、フォトニクス、情報・通信などの電気情報工学とその応用分野の最先端研究に参画することで、技術のブレークスルーを主体的に進めることができる人材の育成を目指している。

#### 応用化学科

人類のグローバルな課題に挑む化学の基礎から応用までを網羅する応用化学は、化学の基礎に立脚し、新しい物質をデザインし、創り出し、その物質の機能を制御することを目的とした学問分野である。このため、その研究領域は物質に関わるあらゆる分野、すなわち物理学、生物学、薬学や医学などにも広がっている。応用化学科では、環境・エネルギー・医療など人類の生活水準の向上において問題となるグローバルな課題を、物質を通して解決することで、未来の持続型社会の構築に貢献できる科学者・技術者を養成するように努めている。応用化学科では、高い専門性と広い視野を身に付け、これからの国際社会で活躍することのできる人材育成のため、化学の共通基礎科目と、その上に4つの研究分野（マテリアルデザイン、環境・分析・プロセス工学、オーガニックサイエンス、バイオサイエンス）を設けた特色あるカリキュラムを用意している。

#### 物理情報工学科

物理情報工学科は、イノベーションにつながる応用物理を学ぶ学科であり、物理学と数学を基盤として、森羅万象に潜む物理現象やシステムに対する「真理の探究」を行うとともに、新しい「価値の創造」に果敢に挑戦している。本学科の使命は、(1)世界的に高く評価される研究、(2)国際社会のリーダーとなる学生の育成、の2つである。研究対象は、化学や生物学・医学的な領域も含めた「広い意味での物理」分野であり、先端工学の特徴である自動化・情報化・システム化を取り入れることによって、新しい情報技術・医療技術・環境エネルギー技術の創出を目指している。教育目標は、森羅万象が私たちに囁きかけている“声”に耳を傾け、語り掛けようとしている“表情”に目を向けられるような「物理情報」力の先導的育成であり、「自我作古」の勇気と使命感を持って「前人未踏の新しい分野」を開拓する気概のあるチャレンジ精神の醸成である。

#### 管理工学科

科学技術を社会基盤に変えるために

ある技術開発が人間や社会にとって真に必要なか？生産・普及が容易か？資金面で実現可能か？従来、科学者や技術者の思考の枠外にあった、こうした視点や発想が益々重要になっている。科学技術の成果を価値ある社会基盤へと昇華させるためには、情報、資金、ハードウェアといった異質な要素を関連づけるためのマネジメント技法を開発せねばならない。

人間社会システムのデザインとマネジメント

管理工学とは上述のように技術開発の是非を問い、実行に移すための理論と応用を旨とする学問であり、具体的な研究フィールドは、生産システム、インターフェイス設計、企業体、公的組織体から、交通システム、都市システム、世界経済や環境問題まで、多様な広がりを持つ。当学科は、科学技術全般から人間心理や企業経営、社会動向までを勘案できる総合的な思考力と、問題発見の能力を持った技術者と研究者の養成を目指す。

#### 数理科学科

数学および統計科学など、数理科学の理論と研究手法を教授することで、抽象的・普遍的に物事を見る力やデータから情報を的確に読み取る力を育み、変化する時代においても確実な判断を下し、幅広く社会に貢献する人材の育成を目的とする。

#### 物理学科

物理学科では、全ての科学技術の基礎である物理学を学び、論理的に思考できる力と問題解決能力を身につけた、社会に貢献できる人材を育成することを教育研究の目的とする。物理学は、極微の世界から物質、生命、宇宙にいたる幅広いスケールの自然現象を調べ、背後に潜む普遍的な原理や基本法則の解明を使命とする精密科学であると同時に、科学技術が高度に発達した現代社会を根底から支える基盤科学である。従って、物理学の進歩は人類の更なる発展にとって非常に重要である。物理学科は、高度の専門知識を武器に様々な重要問題に柔軟かつ果敢に挑戦する人材がこれからの社会に必要であるという理念の下に、精密科学と基盤科学に根ざした知的探求を通じた教育研究を行い、科学技術分野を中心に広く社会に貢献できる優秀な人材を輩出することを目指す。

#### 化学科

化学科は、自然科学として化学を追究し、分子・原子スケールの基礎的理解に基づいて、理論・物理化学から、無機化学、有機化学、生命化学まで「幅広くかつ質の高い基礎化学」の教育を通じて、将来にわたって理工学における新たな概念・ユニークな物質の創成を実現する国際レベルの科学者・研究開発技術者を育成することを目的とする。

#### システムデザイン工学科

基盤技術を総合的に活用システムデザイン工学とは、工学システムとそれを取り巻く環境との調和性を実現する新しい学問学分野である。システムとは、宇宙、エネルギー環境、建築、情報、ロボット、バイオなどのハードウェアシステムとインフラストラクチャを意味し、デザインとは、システムを構成する要素の価値を高める最適システム的设计と制御のことである。システムデザイン工学では、個々に独自の発達を遂げてきた要素技術を統合し、技術と技術、技術と人間、技術と社会のより高い調和した状態をデザインすることを目指している。

##### システムデザイン技術の体得

システムデザイン工学では、設計の対象とそれを取り巻く環境を含めてシステムとしてとらえ、その問題点を解析・抽出し、新しいシステムの設計・提案を行う。カリキュラムは工学的アプローチの基本である力学的手法と制御情報的手法を柱とし、そこから基礎技術を融合する学問を教授する。

#### 情報工学科

20世紀後半になって個人を時間的、場所的な束縛から解放する情報を扱う技術が発展した。さらに21世紀に入り、情報は人だけでなく、ロボットのような知的機械から、日常のありふれた物までも対象とするようになった。情報を有機的に効率よく交換させるための通信の技術とその未来を正しく理解し、情報を把握して人間の役に立つように処理する画像・音声およびコンピュータ技術をしっかり身につけた、世界をリードする先端技術者を養成することが情報工学科の使命である。このような、コンピュータ科学、メディア工学、通信工学を「情報」の観点から融合的に扱う情報工学分野において、情報の発生、獲得、伝達、蓄積、処理、表示などにわたる学術の発展と人材の養成を通じて、社会に貢献することを目的とする。

## 生命情報学科

生命情報学科では、生命科学の新時代を見据えた人材育成を目指す。ヒトゲノムの全容が明らかになり、DNA暗号から作られるRNAやタンパク質、細胞表面の糖鎖などとの相互作用が作り出す様々な生命システムの解明は、新しい産業を興している。またヒトの神経系や認知機能に関する研究は、超高齢化社会に向けての重要な基盤技術を提供する。生命情報学科はこの新しい分野を自らの手で開拓し、幅広い知識と専門性を兼ね備えた、中核的役割を果たす人材を育成する。生命情報学科では、基礎学力として生物系、化学系、物理系、情報系の4つの分野を身に着けるために、今までにないカリキュラムを提供する。具体的には、物理・化学に基礎を置いた生体高分子の考え方、コンピュータを利用した生命機能・構造に関する膨大な情報の扱い方などを、実験・実習などで実際に手を動かしながら、「生命現象をシステムとして理解すること」を習得させる。

## 卒業又は修了認定に関する方針

(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  
<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html>)

### (概要)

理工学に関する基礎教育科目・専門基礎科目・学科専門科目などに加えて、外国語科目と総合教育科目を各学年に配置し、それらを学年制という枠組みの中で積上げ式に修得する。世界を舞台に活躍できる人材の育成を目的として、少人数セミナーや国際人材を育成するプログラムを充実させ、理工学の多岐にわたる学問分野の科目を必修として課している。また、1年間の卒業研究および卒業論文の執筆と発表を通じて、総合的なプロジェクト実行能力の修得を課している。さらに、在学中における海外大学での単位取得、海外インターンシップ等の在外経験の蓄積を大いに奨励し、気品と智徳を併せ持つ人材の育成を目的としている。すべての科目において厳格な評価を実施し、4年間で138単位以上の取得した者に学位を授与する。

## 教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  
<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html>)

### (概要)

- 【1】**「今ある最先端を学ぶのではなく、次の最先端を拓く基礎を学ぶ」をモットーに基礎重視の教育を行う。
- 上記の点を確固たるものとするために、厳選された必修科目を通して各自が基礎学力、基盤的知識をしっかりと身につけうる授業体系となっている。また、履修計画にゆとりを持たせ、各自の関心に応じた勉強ができるように、科目選択の自由度を高める工夫もなされている。
  - 学部4年間を一貫した総合カリキュラムとし、さらに大学院進学率68%以上という現状を考慮し、修士課程を含めた6年間を通じ個性と能力を伸ばしうる、体系的なカリキュラムを組んでいる。
- 【2】** 科学技術各分野の専門家にとどまらず、科学技術の置かれている現在の状況を的確に把握し、科学技術と人間社会とのより良い関係に着目できる、社会のリーダーを養成する。
- 生命、環境、社会、芸術、外国語など、様々な分野の科目を総合教育科目として設置し、理工学部教育の重要な柱のひとつに位置づけている。総合教育科目を学部4年間にわたって学べるようにすることで、視野の広い、柔軟な思考のできる科学技術者・研究者を育成する。
- 【3】** 幅広い教養とグローバルな視野を持ち、世界を舞台に活躍できる逞しい人材を育成する。
- 外国語教育においては、いくつもの語種にわたり、コミュニケーション能力の向上

<p>を重視した、充実した教育プログラムが学部4年間にわたって準備されている。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針  (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要)  理工学部では、その教育・研究理念に沿って、未知の領域に挑戦する強い意志と、深い洞察力と豊かな創造力をもち、幅広く国際教養を身につけ、これからの日本と国際社会を先導すべき優れた人材の育成を目標としており、これに応えることができる、意欲ある学生諸君の入学を歓迎する。一般選抜を筆頭に多様な入試（指定校推薦、留学生、帰国生、AO、一貫教育高校からの推薦入学）を実施し、様々な能力をもつ学生が互いに切磋琢磨し、創発効果を生み出せる教育研究環境を目指す。</p>
<p>学部等名 総合政策学部</p>
<p>教育研究上の目的  (公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf">https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf</a>)</p>
<p>(概要)  総合政策学部は、多様な問題を解決し社会を先導する「問題解決のプロフェッショナル」を育成することを目標とし、「実践知」を教育理念としている。政治、法律、経済、社会、文化、テクノロジー、心と体などさまざまな領域を取り込みながら、問題を発見し、その解決に向けて学生と教員が一体となって取り組むことを重視する。高い問題意識に基づき、自ら考え、自らの手で未来を拓く力を磨く意欲ある人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了認定に関する方針  (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要)  <b>【教育目標】</b>  慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、複雑な社会現象のなかから政策課題を発見し、その解決に向けて政策を立案し、これを実施する態度・知識・技能を身につけた、自ら考え、自らの手で未来を拓く先導者の養成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（総合政策学）の学位を授与する。</p> <p><b>【資質・能力目標】</b>  資質・能力目標（1）：実践知の考え方  実学（サイヤンス）の精神のもと、自ら考え、自らの手で未来を拓こうとする力。  資質・能力目標（2）：問題発見・問題解決の態度  目の前にある明らかな問題を見過ごさないだけでなく、隠された問題を見つけ出し、解決に向けて実践する力。  資質・能力目標（3）：多様な専門知識の総合的理解  不確実性が一層に高まる社会を歩み抜くために必要な言語能力、データサイエンス、情報技術、ウェルネスの力を備え、総合政策学部が持つ多様な専門分野「国際戦略」、「言語文化とコミュニケーション」、「社会イノベーションと経営・組織」、「政策デザイン」、「総合政策学の方法論」で培われた既存の知識を理解し、それらを再構築して体系化し、実践する力。  資質・能力目標（4）：革新的な発想や方法を創造する技能  既存の方法だけでなく、それにとらわれずに新たな方法を創造する力。</p>

資質・能力目標（５）：異なる主体との協働

多様な主体とのコミュニケーションに対する高い意欲を持ち、立場を越えてともに実践し、発信する力。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  
<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html>）

（概要）

【教育課程の編成】

総合政策学部（学士）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、基盤科目（総合講座科目、言語コミュニケーション科目、データサイエンス科目、情報技術基礎科目、ウェルネス科目、共通科目）、先端科目、研究プロジェクト科目、特設科目から構成される教育課程を体系的に編成する。

【教育課程の実施】

この教育課程の編成のもと、グループワーク、アクティブラーニング、フィールドワーク、PBL、インターンシップなどの教育法を組み合わせ教育を実施する。

【学修成果の評価方法】

学修成果の評価は、各科目において定める成績評価基準に基づいて行う。本総合政策学科の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。

【資質・能力目標と教育内容との関係】

資質・能力目標（１）：実践知の考え方

総合講座科目では、入学後に学生が学修・研究を行っていくにあたり重要な実学（サイエンス）の精神を涵養し、問題解決のプロフェッショナルとなるための方法論を学ぶ。これにより、総合政策学部における学びの基本姿勢を確立する。

資質・能力目標（２）：問題発見・問題解決の態度

複数の言語運用能力を修得し、国際的な対話や協力関係の構築を志す言語コミュニケーション科目、データ分析の技術を修得し、政策形成におけるデータ駆動型の意思決定を後押しする能力を涵養するデータサイエンス科目、デジタル技術を活用し、研究や政策提言に必要な情報収集・解析能力を高めることを志す情報技術基礎科目、および、健康に留まらず自己開発の一環を支えるウェルネス科目を通じて、問題発見・解決に必要な基礎的な態度を学生に提供し、学生が多角的な視点から問題にアプローチできるようにする。

資質・能力目標（３）：多様な専門知識の総合的理解

先端科目や特設科目を通じて、学生に「政策デザイン」「社会イノベーションと経営・組織」「国際戦略」「言語文化とコミュニケーション」「総合政策学の方法論」などの専門分野の知識と技能を提供する。これにより、各分野での専門性を高めるとともに、獲得した知識や能力を分野横断的に再構築して問題解決を行う実践的な能力を養う。

資質・能力目標（４）：革新的な発想や方法を創造する技能

多様な学問領域がクロスオーバーして構成される共通科目、先端科目、特設科目では、既存の枠組みにとらわれずに新しいアイデアや方法を創造する力を育み、革新的な解決策を提案する能力を養う。

資質・能力目標（５）：異なる主体との協働

研究プロジェクト科目や特設科目を通じて、多様なバックグラウンドを持つ人々と複数人で学修・研究活動を行う。これにより、自身とは異なる立場の主体とのコミュニケーションに対して高い意欲を持ち、立場を越えた協力関係を築く経験を経ることで、協働して問題発見・解決することに向けた実践的な能力を養う。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  
<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html>）

（概要）

【求める学生像】

- （１）学部が理念として掲げる「実践知」やその理念に基づく教育内容を良く理解し、問題発見・問題解決の能力の修得に意欲を持っている学生
- （２）高等学校等の教育課程で培われた基礎的学力を背景に、SFC の教育環境やシステムなどあらゆるリソースを積極的に活用することで、より高いレベルでの自己実現を図ろうとする情熱を持った学生
- （３）社会の変化を見通し、人類社会が直面する問題を発見・分析し、自分の課題として積極的にこれを解決へと導くことができる学生

【選抜の基本方針】

このような入学者を幅広く受け入れるため、（１）AO入試（春AO、夏秋AO）、（２）一般選抜、（３）AO入試（冬AO（グローバル））、（４）外国人留学生入試、（５）帰国生入試により、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」などの要素に基づき、未来のグローバル社会を創造する先導者となれる人物であることを評価し、選抜を実施します。

（１）AO入試（春AO、夏秋AO）

書類審査（１次選考）において基礎的学力 や知識・技能・思考力・判断力・表現力・意欲、学業以外の諸成果等を評価し、面接（２次選考）において、上記「求める学生像」に相応しい人物であることを総合的に評価します。

（２）一般選抜

学科試験（外国語・数学・情報）により基礎的学力を評価し、小論文において読解、発想、論理的構成、表現などの総合的能力を評価します。

（３）AO入試（冬AO（グローバル））

上記「求める学生像」に相応しいこと、および、GIGAプログラム（英語のみで卒業を可能とするプログラム）終了後、国際的なフィールドで活躍できる人物であることを、書類により多面的に評価します。

（４）外国人留学生入試

書類審査（１次選考）において海外で受けた教育により修得した能力や基礎的学力等を多角的に評価し、面接（２次選考）において入学後の適性や人物について総合的に評価します。

（５）帰国生入試

書類審査（１次選考）において海外で受けた教育により修得した能力や基礎的学力等を多角的に評価し、小論文（２次選考）において発想、論理的構成、表現などの総合的能力を評価します。

学部等名 環境情報学部

教育研究上の目的

（公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf>）

<p>(概要)</p> <p>環境情報学部は、地球的規模で問題を発見しそれらの問題を解決することを目標とし、そのために、既存の学問に加え全く新しい学問に挑戦し続けることを研究教育方針としている。情報、生命、心身の健康、環境とエネルギー、デザイン、防災やメディアなどの新しい課題領域に対応するために、自らの力とともに、仲間との協働の力によって、先端の科学とテクノロジーを前提とした未来のグローバル社会を創造する先導者の育成を目的とする。</p>
<p>卒業又は修了認定に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p><b>【教育目標】</b></p> <p>慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、先を見通せない時代を生き抜き、未来のグローバル社会を創造する先導者の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（環境情報学）の学位を授与する。</p> <p><b>【資質・能力目標】</b></p> <p>資質・能力目標（1）：主体的に問題を発見解決する能力  問題を発見し、解決する力を持つだけでなく、主体的に取り組むことができる能力を習得する。</p> <p>資質・能力目標（2）：問題発見解決を支える知識と技能  問題発見・解決を支える基礎的な知識と技能となる、言語、データサイエンス、情報技術、ウェルネスの力を習得する。</p> <p>資質・能力目標（3）：専門分野の知識と技能  環境情報学部が持つ多様な専門分野「先端情報システム」「先端領域デザイン」「先端生命科学」「環境デザイン」「人間環境科学」における知識と技能を習得する。</p> <p>資質・能力目標（4）：学際的なアプローチと協働力  複数の専門領域に跨がって問題に取り組む能力とともに、異なる専門領域の仲間と協働できる能力を養う。</p> <p>資質・能力目標（5）：困難に立ち向かう実行力と発信力  問題発見解決において困難な状況に直面しても、それを突破して実行し発信する能力を習得する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p><b>【教育課程の編成】</b></p> <p>環境情報学部（学士）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、基盤科目（総合講座科目、言語コミュニケーション科目、データサイエンス科目、情報技術基礎科目、ウェルネス科目、共通科目）、先端科目、研究プロジェクト科目、特設科目から構成される教育課程を体系的に編成する。</p> <p><b>【教育課程の実施】</b></p> <p>この教育課程の編成のもと、グループワーク、アクティブラーニング、フィールドワーク、PBL、インターンシップなどの教育法を組み合わせる教育を実施する。</p> <p><b>【学修成果の評価方法】</b></p> <p>学修成果の評価は、各科目において定める成績評価基準に基づいて行う。</p>

本環境情報学科の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。

#### 【資質・能力目標と教育内容との関係】

資質・能力目標（１）：主体的に問題を発見解決する能力

学生が卒業に向けて論文の執筆や作品の制作などを行う研究プロジェクト科目（研究会など）の活動において教員と学生が共に、何が問題か考え、解決方法を創出することを目指す過程で、主体的に問題を発見解決する力を養う。

資質・能力目標（２）：問題発見解決を支える知識と技能

各言語の実践的な運用能力の習得を目指す言語コミュニケーション科目、様々なデータを分析する能力の獲得を目指すデータサイエンス科目、コンピューターやインターネットを活用する情報技術基礎科目、および、健康に留まらず自己開発の一環を支えるウェルネス科目を通じて、問題解決に必要な基礎的な知識を学生に提供し、学生が多角的な視点から問題にアプローチできるようにする。

資質・能力目標（３）：専門分野の知識と技能

先端科目や特設科目を通じて、学生に「先端情報システム」「先端領域デザイン」「先端生命科学」「環境デザイン」「人間環境科学」などの専門分野の知識と技能を提供する。これにより、各分野での専門性を高め、問題解決に向けた実践的な能力を養う。

資質・能力目標（４）：学際的なアプローチと協働力

総合講座科目、共通科目、特設科目では、様々な専門領域を領域横断的に学び、他の学生と課題に取り組む機会を提供する。これにより、学際的な視点を持ち、異なる専門やバックグラウンドを持つ学生同士で協力する力を涵養する。

資質・能力目標（５）：困難に立ち向かう実行力と発信力

研究プロジェクト科目では、学生が困難な課題に対して試行錯誤し乗り越える経験を積み、実行力の向上を目指す。また研究会の活動を通じて学内外で成果を発表する機会を通じて、発信力を養成する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  
<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html>）

（概要）

#### 【求める学生像】

- （１）地球環境や人間社会に存在する数多の未解決な問題を発見しそれらの問題を解決するという学部の理念や教育内容を良く理解している学生
- （２）高等学校等の教育課程で培われた基礎的な学力を背景に、SFC の教育環境やシステムなどあらゆるリソースを積極的に活用することで、より高いレベルでの自己実現を図ろうとする情熱を持った学生
- （３）時代に変革を起こし、明るい未来を創り出すために、独自のビジョンとアイデアに基づき挑戦する意欲のある学生

#### 【選抜の基本方針】

このような入学者を幅広く受け入れるため、（１）AO入試（春AO、夏秋AO）、（２）一般選抜、（３）AO入試（冬AO（グローバル））、（４）外国人留学生入試、（５）帰国生入試により、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」などの要素に基づき、未来のグローバル社会を創造する先導者となれる人物であることを評価し、選抜を実施します。

<p>(1) AO入試 (春AO、夏秋AO)</p> <p>書類審査 (1次選考) において基礎的学力 や知識・技能・思考力・判断力・表現力・意欲、学業以外の諸成果等を評価し、面接 (2次選考) において、上記 「求める学生像」 に相応しい人物であることを総合的に評価します。</p> <p>(2) 一般選抜</p> <p>学科試験 (外国語・数学・情報) により基礎的学力を評価し、小論文において読解、発想、論理的構成、表現などの総合的能力を評価します。</p> <p>(3) AO入試 (冬AO (グローバル) )</p> <p>上記 「求める学生像」 に相応しいこと、および、GIGAプログラム (英語のみで卒業を可能とするプログラム) 終了後、国際的なフィールドで活躍できる人物であることを、書類により多面的に評価します。</p> <p>(4) 外国人留学生入試</p> <p>書類審査 (1次選考) において海外で受けた教育により修得した能力や基礎的学力等を多角的に評価し、面接 (2次選考) において入学後の適性や人物について総合的に評価します。</p> <p>(5) 帰国生入試</p> <p>書類審査 (1次選考) において海外で受けた教育により修得した能力や基礎的学力等を多角的に評価し、小論文 (2次選考) において発想、論理的構成、表現などの総合的能力を評価します。</p>
--

<p>学部等名 看護医療学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf">https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>本塾建学の精神に則り、生命・人間尊重の精神と豊かな人間性を備え、深い知性と倫理観に基づく判断力と実践力を持ち、生涯にわたって研鑽を続け、看護医療を通して人類の福祉に貢献する人材の育成を目的とする。この理念に基づく人材養成にあっては、次のような資質を涵養することを目標とする。(1)基本倫理としての生命・人間尊重の精神を身につけ、人間的に調和の取れた人格を備え、社会人として成長しうる素地を培う。(2)看護の知識・技術を駆使して新しい看護活動の場を創造し、保健・医療・福祉の発展に寄与する基礎能力を養う。(3)看護学の実践・研究および他の学問分野との相互交流により実学としての看護医療の発展を先導する人材を育成する。</p>
<p>卒業又は修了認定に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>学則で定める卒業に必要な単位数を取得することが学士号授与の要件となる。また、卒業までに次の5つの力を有することを重視する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基盤となる人間力 <p>基本倫理としての生命・人間尊重の精神を身につけ、人間的に調和の取れた人格を備え、社会人として成長しうる力を有する。また、幅広く社会への関心をもち、人々と出会い交流し相互作用ができる力を有する。</p> </li> <li>2. 看護医療の専門的力 <p>看護の知識・技術を駆使して新しい看護活動の場を創造し、保健・医療・福祉を先導するための基礎的能力を有する。</p> </li> <li>3. 連携・協働する力 <p>高度化された医療に対応し、さまざまな専門職のチームで互いの専門性を最大限に活かして、より優れた実践に繋げるために行動できる能力を有する。</p> </li> </ol>

<p>4. 国際的に活動する力 国際的な感覚をもち、日本の位置や役割を捉えられる幅広い教養を身に付け、他国の医療専門職と協働できる柔軟な発想と行動ができる基礎的能力を有する。</p> <p>5. 変化を起こす力 看護や医療および社会で起こっている、あるいは起こりうる事象への関心を深め、問題を発見する批判的能力、問題解決能力、変革力を有する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要) カリキュラムは4つの領域で構成し、基礎から実践力まで養う。</p> <p>1. 人間・社会科学領域 ＜情報技術＞＜自然言語＞＜ヒューマンケアリング＞＜制度・社会＞の4つの分野から成り立ち、人間や社会を広く深く理解するための科目が配置されている。</p> <p>2. 健康科学領域 ＜健康科学・病態学＞＜先端医療＞の2つの分野から成り立ち、心身の健康と健康破綻時の病態、およびその回復過程を理解するための科目が配置されている。</p> <p>3. 看護科学領域 ＜基礎看護学＞＜母性看護学/助産学＞＜老年看護学＞＜小児看護学＞＜成人看護学＞＜精神看護学＞＜在宅看護学＞＜地域看護学＞＜グローバルヘルス＞の9つの分野から成り立っている。人間をどうとらえるか、人間が生きて生活する環境をどうとらえるか、人間の健康をどうとらえるか、看護そのものをどうとらえるかについて様々な視点からアプローチできるような科目が配置されている。</p> <p>4. 統合領域 ＜看護・医療統合＞分野から成り、「人間・社会科学領域」「健康科学領域」での学びを基盤に「看護科学領域」の9つの分野全体を見渡し、医療とは何か、看護とは何かを改めて問い直すような科目が配置されている。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要) 看護医療学部は、「人の健康と生命、看護への関心をもち、他者の苦痛や悩みを理解しようとする人」、「人を尊重し自分とは異なる立場や文化、価値観を持つ人々とコミュニケーションでき、関係を築いていこうとする人」、「ものごとを多角的にとらえ、そこにある問題に気づき、解決の方向性と対策を考え出し、それを実行する意志と行動力がある人」、「自らやると決めたことをやり遂げようとし、失敗の経験から学び、自身を成長させようとする人」、「自分の行いが人々や社会に役立つことを望み、人々や社会のよりよいあり方を追求しようとする人」を求めている。学部開設の目的である、人々と社会のため看護医療の先導者となる意欲ある人材を、一般選抜、AO入試、第2学年学士編入学試験などの多様な方法により選抜している。</p>
<p>学部等名 薬学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf">https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf</a>)</p>

<p>(概要)</p> <p>本塾建学の精神に則り、薬学の理論と応用とを研究教授し、医療・創薬に関わる分野で求められる学識と能力を培うことを目的とする。</p> <p><b>薬学科</b></p> <p>薬学科は、科学の基盤をもち、医療人としての自覚のもと、高い臨床能力を発揮できる、人に優しい薬剤師の育成を目的とする。</p> <p><b>薬科学科</b></p> <p>薬科学科は、創薬、臨床開発、環境・生命科学などの幅広い分野における科学者の育成を目的とする。</p>
<p>卒業又は修了認定に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p><b>【薬学科】</b></p> <p>薬学科は、科学の基盤をもち、医療人としての自覚のもと、高い臨床能力を発揮できる、人に優しい薬剤師の育成を目的としている。このための教育プログラムにおいて、以下の資質・能力を修得し、修了要件を満たした者に、学士（薬学）の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● グローバル社会に対応した語学力や広い教養を身につけ、医療人としての倫理観に基づいて行動できる。</li> <li>● 他者の状況や背景を理解した上で、円滑なコミュニケーションをとることができる。</li> <li>● 医薬品適正使用の基盤となる科学を修得し、医療・保健・福祉・公衆衛生分野において活用する能力を有している。</li> <li>● 安全で質の高い、個別最適化された薬物治療および地域住民の健康維持増進を、チームの一員として実践する能力を有している。</li> <li>● 薬学領域における課題を見出し、科学的視点に基づいて合理的な解決策を提案するとともに、アウトカムを適切に評価する能力を有している。</li> <li>● 最新の医療・科学技術・制度に関して、主体的に情報収集して分析する能力を有し、生涯にわたって研鑽しようとする態度を備えている。</li> </ul> <p><b>【薬科学科】</b></p> <p>薬科学科は、創薬、臨床開発、環境・生命科学などの幅広い分野における科学者の育成を目的としている。このための教育プログラムにおいて、以下の資質・能力を修得し、修了要件を満たした者に、学士（薬科学）の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● グローバル社会に対応した語学力や広い教養を身につけ、創薬・生命科学研究に関わる科学者としての倫理観に基づき、他者と協調しつつ行動できる。</li> <li>● 薬科学の知識・技能を修得し、創薬、臨床開発、環境・生命科学など幅広い分野に活用するための能力を有している。</li> <li>● 薬学領域における課題を見出し、科学的視点に基づいて合理的な解決策を提案するとともに、実験データを科学的に評価し、他者に適切に報告する能力を有している。</li> <li>● 最新の科学技術・制度に関して、主体的に情報収集して分析する能力を有し、社会の発展に貢献しようとする態度を備えている。</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html">https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html</a>)</p>

(概要)

薬学部では、科学の基盤を持ち、グローバルな視点に基づいて、未来医療を先導できるプロフェッショナルを養成することを目標とする。本目標を達成するため、以下に列挙する視点を重視した教育課程を編成、実施する。

【薬学科】

教育課程編成の方針

- ・薬学教育モデル・コアカリキュラムを基本
- ・教養教育と倫理教育による高い倫理観と患者への思いやり、チーム医療における協調性と責任感の醸成
- ・外国語教育等を通じた医療分野での国際性の涵養
- ・医薬品や化学物質と生命現象を理解するための基礎的な科学力の習得
- ・適正な薬物療法を推進するための知識および実践的技能の習得
- ・健康増進や公衆衛生の向上のための知識の習得
- ・卒業研究を通じた問題発見・解決能力およびプレゼンテーション能力の醸成

これらの視点に基づく科目を有機的につなぎ、体系的な教育課程を構築する。

教育方法と学修成果の評価

各科目では、その目的と特性に応じて、講義、演習、グループワーク、実習に加え、薬局・病院での実務実習および講座・センターに配属されて行う探究活動等、様々な形態を用いて授業を実施する。また、授業科目の目標に到達したかについては、試験、レポート、パフォーマンス評価等によって学修成果を評価する。成績評価の方法と基準は各科目のシラバスおよび学習指導要領に明記し周知する。

【薬科学科】

教育課程編成の方針

- ・生命科学を中心とした自然科学の知識・実験技術の習得
- ・薬学に特徴的な科目による医薬品や医療の知識の習得
- ・生命科学や創薬研究に関わる人材に相応しい倫理観の醸成
- ・卒業研究を通じた問題発見・解決能力およびプレゼンテーション能力の醸成
- ・外国語教育等を通じた科学者としての国際性の涵養

これらの視点に基づく科目を有機的につなぎ、体系的な教育課程を構築する。

教育方法と学修成果の評価

各科目では、その目的と特性に応じて、講義、演習、グループワーク、実習、および講座・センターに配属されて行う探究活動等、様々な形態を用いて授業を実施する。また、授業科目の目標に到達したかについては、試験、レポート、パフォーマンス評価等によって学修成果を評価する。成績評価の方法と基準は各科目のシラバスおよび学習指導要領に明記し周知する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。  
<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html>)

(概要)

福澤諭吉の建学の精神は、独立自尊の人格を育成し、気品の泉源、智徳の模範となり全社会の先導者たる人を養成することである。薬学部では、建学の精神に則り、医療・創薬に関わる分野で求められる学識と能力を培うことを目的に薬学の理論と応用とを研究教授する。その目的を理解し、化学、数学、語学（英語）の基礎力と薬学を学ぶ強い意志を持つ学生の入学を求める。

**【薬学科（6年制）】**

医療薬学を学び薬剤師の資格を持って社会に貢献する意欲のある学生

**【薬科学科（4年制）】**

自然科学に興味があり、薬の創製等を通して人類へ貢献する意欲のある学生

(通信教育課程)

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法：ホームページにて公表している。 <a href="https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html">https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html</a> )
(概要) 文学部(通信教育課程)は、本塾建学の精神に則り、哲学、美学、図書館・情報学、人間関係学、史学、文学にかかわる理論と応用を研究教授し、文化の創造と社会の発展に資する幅広い教養と深い学識および知的・倫理的・実践的能力を有した人物を育成します。すなわち「文(ことば)」にかかわる広大な領域を対象として、創立者福澤諭吉の「実学の精神」に基づき、実証的に真理を解明し問題を解決してゆく科学的な姿勢と知識および能力を培うことをめざします。
卒業又は修了認定に関する方針 (公表方法：ホームページにて公表している。 <a href="https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html">https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html</a> )
(概要) 文学部(通信教育課程)では、学生が所属する「類」(第1類:哲学を主とするもの、第2類:史学を主とするもの、第3類:文学を主とするもの)、およびその中で扱われる専攻領域によって求められることが多少異なります。学生は、執筆を希望する卒業論文のテーマに関係する専攻領域で求められることを踏まえ、指導教員の指導のもとで卒業論文の執筆を進めます。所定の要件を満たしたと認められる学生に対して、学士の学位が授与されます。  各類で授与される学位、およびその中で扱われる専攻領域は、文学部(通学課程)の17専攻と対応しており、次の通りです。 [第1類] 学士(哲学)：哲学専攻領域、倫理学専攻領域 学士(美学)：美学美術史学専攻領域 学士(図書館・情報学)：図書館・情報学専攻領域 学士(人間関係学)：社会学専攻領域、心理学専攻領域、教育学専攻領域、人間科学専攻領域 [第2類] 学士(史学)：日本史学専攻領域、東洋史学専攻領域、西洋史学専攻領域、民族学考古学専攻領域 [第3類] 学士(文学)：国文学専攻領域、中国文学専攻領域、英米文学専攻領域、独文学専攻領域、仏文学専攻領域  授与される学位ごとの卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) および教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)は別に定めるとおりです。  <b>授与される学位ごとの卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) / 教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)</b>  第1類 学士(哲学)、学士(美学)、学士(図書館・情報学)、学士(人間関係学)

第2類 学士（史学）

第3類 学士（文学）

### 【第1類】

文学部（通信教育課程）第1類では哲学を主とし、幅広い専攻領域を扱っていますが、学生は、自らが取得を希望する学位の専攻分野（学士（〇〇）を指す）に基づいて卒業論文のテーマを検討し、そのテーマに関係する専攻領域で求められることを踏まえ学修を進めるとともに、指導教員の指導のもとでテーマを掘り下げて卒業論文の執筆を進めていきます。

第1類で授与される学位の専攻分野と関係する専攻領域は次の通りです。

学士（哲学）：哲学専攻領域、倫理学専攻領域

学士（美学）：美学美術史学専攻領域

学士（図書館・情報学）：図書館・情報学専攻領域

学士（人間関係学）：社会学専攻領域、心理学専攻領域、教育学専攻領域、人間科学専攻領域

所定の必要単位を修得したうえで、それぞれの学位において、専攻領域で求められること、卒業論文執筆の重点項目などを含んだ方針は次の通りです。

### 学士（哲学）

#### 〔哲学専攻領域〕

#### 1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

##### 〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、西洋哲学に対する理解を深めながら批判的思考力を養い、論理的表現力を磨くとともに、現代社会の諸問題に対して普遍的かつ自律的な視点から考察できる人材の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（哲学）の学位を授与する。

##### 〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（1）：古今の西洋哲学の文献を正確に理解できること。またそのために必要な語学力と批判的思考力を身につけていること。

資質・能力目標（2）：口頭発表・文章表現などにおいて説得力ある議論・論証ができるだけの論理的表現力を身につけていること。

資質・能力目標（3）：人間とそれを取り巻く世界、人間が形成してきた知識（諸科学）、信念体系、価値体系について、原理的かつ総合的な反省的考察をおこなうことができること。

資質・能力目標（4）：変転めまぐるしい現代社会の只中にあっても、問題に対してつねに原理的かつ批判的な考察を加えようとする合理的で自律的な思考主体・表現主体であると同時に、いかなる問題に直面しても、時流に流されることなく、つねに普遍的な観点に立とうとする行為主体であること。

資質・能力目標（5）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。あるいは、卒業試験において、同

等の内容を提示する力。

##### 〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。

3. 方法が目的に適切である。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

## 2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

### 〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）哲学専攻領域（学士：哲学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

### 〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- （１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。
- （２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、テキスト科目、スクーリング科目などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- （３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

### 〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：古今の西洋哲学の文献を正確に理解できること。またそのために必要な語学力と批判的思考力を身につけていること。

→総合教育科目において、通信教育課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能、着実な言語運用能力を身につけ、専門教育科目においてさらなる応用力を養う。

資質・能力目標（２）：口頭発表・文章表現などにおいて説得力ある議論・論証ができるだけの論理的表現力を身につけていること。

→総合教育科目、必修外国語科目での学修成果をふまえ、専門教育科目において、哲学にかかわる基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標（３）：人間とそれを取り巻く世界、人間が形成してきた知識（諸科学）、信念体系、価値体系について、原理的かつ総合的な反省的考察をおこなうことができること。

→様々な科目を組み合わせることで履修することにより、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。また、他学部の専門教育科目等の履修も可能とし、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標（４）：変転めまぐるしい現代社会の只中であっても、問題に対してつねに原理的かつ批判的な考察を加えようとする合理的で自律的な思考主体・表現主体であると同時に、いかなる問題に直面しても、時流に流されることなく、つねに普遍的な観点に立とうとする行為主体であること。

→主として卒業試験において、各自の研究テーマを探求し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

資質・能力目標（５）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。あるいは、卒業試験において、同

等の内容を提示する力。

→学生は自らの関心に従って研究テーマを選択し、担当教員による指導を受けることができる。

### [倫理学専攻領域]

#### 1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

##### 〈教育目標〉

倫理学専攻領域は、慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、古今東西の思想家たちとの対話を通じて人間の生き方を探究し、思想家の精神的創作活動の場としての文化の本質を問い、そして、近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直す能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（哲学）の学位を授与する。

##### 〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：人間の生き方を探究する視点と方法を確立するために必要とされる、倫理学の主要理論と理論史に関する基本的な知識を習得している。

資質・能力目標（２）：多様な倫理思想・宗教思想についての理解を深め、人間の根底に迫るとともに、多文化社会における人間の生のあり方を反省する力。

資質・能力目標（３）：科学技術の発展や環境破壊、戦争、グローバル化など、現代社会の身近な問題を手がかりにして、近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直す力。

資質・能力目標（４）：倫理学上重要な理論とそれに関する先端的研究について、一定の知識を有している。

資質・能力目標（５）：卒業論文において、人間の生き方や社会のあり方について考察すべき問いを自らの関心に従って選択し、先行研究をふまえながら、それに対する解答を首尾一貫して提示する力。

##### 〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は、次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である
2. 先行研究を踏まえている
3. 方法が目的に適っている
4. 内容が論理的で一貫している
5. 形式が学術論文として適切である

#### 2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

##### 〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）倫理学専攻領域（学士：哲学）は「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

##### 〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、多様な科目群を設置する。

（２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、テキスト科目、スクーリング科目などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

（３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

### 〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：人間の生き方を探究する視点と方法を確立するために必要とされる、倫理学の主要理論と理論史に関する基本的な知識を習得している。

→倫理学の主要理論と理論史に関する基本的な知識を習得するための科目として、「倫理学」を設置する。

資質・能力目標（２）：多様な倫理思想・宗教思想についての理解を深め、人間の根底に迫るとともに、多文化社会における人間の生のあり方を反省する力。

→多様な倫理思想・宗教思想の理解を深めるための科目として、「倫理学（専門）」などを設置する。

資質・能力目標（３）：科学技術の発展や環境破壊、戦争、グローバル化など、現代社会の身近な問題を手がかりにして、近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直す力。

→現代社会の身近な問題を手がかりにして近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直すための科目として、「現代倫理学の諸問題」を設置する。

資質・能力目標（４）：倫理学上重要な理論とそれに関する先端的研究について、一定の知識を有している。

→倫理学上重要な諸理論を詳細にわたって理解し、その先端的研究に触れるための科目として、「倫理学特殊」を設置する。

資質・能力目標（５）：卒業論文において、人間の生き方や社会のあり方について考察すべき問いを自らの関心に従って選択し、先行研究をふまえながら、それに対する解答を首尾一貫して提示する力。

→卒業論文を必須として課す。学生は自らの関心に従って研究テーマを選択し、担当教員による指導を受けることができる。

## 学士（美学）

### 〔美学美術史学専攻領域〕

#### 1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

##### 〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、古今東西の美と芸術に関する様々な知識と研究方法を修得しながら、優れたコミュニケーション能力を有し、人間を尊重し、自らと他者を理解することによって多様な価値を認める深い人間性を養う。また、さまざまな分野でリーダーシップを発揮し、社会の各方面に貢献できる人材となることを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（美学）の学位を授与する。

##### 〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：美学、芸術学、美術史学、音楽学、アート・マネジメント等、美と芸術に関する各分野の学問に関して、本質的で幅広い知識と教養を身につける。

資質・能力目標（２）：芸術の諸分野についての基礎的教養を身につけ、あわせてイメージやパフォーマンス等の非言語的対象を把握し、それを適切に言語化する基本的リテラシーを身につける。

資質・能力目標（３）：研究テーマに応じて適切な情報の収集と分析を行い、科学的・論理的に思考し、批判的に考えることができる力。

資質・能力目標（４）：適確な文章をもって、学問的な評価に耐えうる卒業論文を執

筆する力。

#### 〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

## 2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

### 〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）美学美術史学専攻領域（学士：美学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

### 〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせる教育を実施する。

- (1) 美学・芸術学、美術史学と音楽学などの芸術諸分野にわたる多様な科目群を設置することで、美と芸術に関する基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指す。
- (2) 自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目において、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3) 知的探求と実践力の育成のために、所属する類の科目を必ず履修するとともに、他の類の専門教育科目を選択科目として履修する機会を設ける。

### 〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（1）：美学、芸術学、美術史学、音楽学、アート・マネジメント等、美と芸術に関する各分野の学問に関して、本質的で幅広い知識と教養を身につける。

→美学や芸術学、芸術の諸分野に関する概説と各論等、多様な授業を設置する。

資質・能力目標（2）：芸術の諸分野についての基礎的教養を身につけ、あわせてイメージやパフォーマンス等の非言語的対象を把握し、それを適切に言語化する基本的リテラシーを身につける。

→芸術の諸分野に関する概論、概説、各論等に加え、卒業論文指導において、基礎的な専門用語や概念を理解し、作品記述の方法を身につけることで、非言語的対象を言語化するための基本的リテラシーを養う。

資質・能力目標（3）：研究テーマに応じて適切な情報の収集と分析を行い、科学的・論理的に思考し、批判的に考えることができる力。

→卒業論文の取り組みにおいて、基本文献や研究方法、資料の扱い方などを学び、論文執筆の実践を通じて、情報収集の方法と分析、科学的な思考能力を養う。

資質・能力目標（4）：適確な文章をもって、学問的な評価に耐えうる卒業論文を執筆する力。

→卒業論文の担当教員の下で研究・発表を行い、卒業論文を執筆する。

学士（図書館・情報学）

[図書館・情報学専攻領域]

## 1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

### 〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、個人や機関、団体などにより生産され記録された経験や情報、知識について、その流通・組織化・提供・利用・保存・制度など諸側面の基礎的な知識の学修を通じて、情報という観点から問題を発見し自ら解決できる総合的な能力を習得することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（図書館・情報学）の学位を授与する。

### 〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（1）：特定テーマから広範な分野にいたるまで文献と情報を検索、収集、分析する能力。

資質・能力目標（2）：コンピュータをはじめ情報機器・情報メディアを活用する情報処理能力。

資質・能力目標（3）：情報専門職としての基盤形成。

資質・能力目標（4）：日本語による専門文献の読解能力。

資質・能力目標（5）：論理的な文章表現能力。

資質・能力目標（6）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

### 〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は以下の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

## 2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

### 〈教育課程の編成〉

文学部図書館・情報学専攻領域（学士：図書館・情報学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

### 〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせて教育を実施する。

（1）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。また、図書館・情報学専攻領域以外が設置する専門教育科目の履修を通して、幅広い視野と知識の習得を図る。

（2）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

### 〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（1）：特定テーマから広範な分野にいたるまで文献と情報を検索、収集、分析する能力。

→総合教育科目、必修外国語科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能を身につけたうえで、専門教育科目において図書館・情報学にかかわる文献と情報を検索、収集、分析する専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標（２）：コンピュータをはじめ情報機器・情報メディアを活用する情報処理能力。

→専門教育科目において、情報処理、情報管理などの諸活動および情報サービスに必要な不可欠な情報検索と情報組織化の基本的な考え方と技術について学修する。また、情報メディアの社会的制度、技術特性、人間の認知と行動を踏まえながら、情報メディアが社会で果たす役割について学修する。

資質・能力目標（３）：情報専門職としての基盤形成。

→専門教育科目において、図書館や情報提供機関のサービスと運営を中心に、図書館司書等に必要とされる、社会において知識と情報を活用するための仕組みについて学修する。

資質・能力目標（４）：日本語よる専門文献の読解能力。

→専攻設置の専門教育科目において、図書館・情報学にかかわる日本語よる専門的な文献を読解する能力を育成する。

資質・能力目標（５）：論理的な文章表現能力。

→総合教育科目、必修外国語科目での学習成果を踏まえ、卒業論文指導において、基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標（６）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

→担当教員の指導のもと、課題設定から課題解決、さらに成果のまとめまでを含めた卒業研究を課す。卒業研究は、複数教員による審査および審査項目の標準化などの指導体制のもとで実施することにより、総合的な能力の育成を図る。

## 学士（人間関係学）

### 〔社会学専攻領域〕

#### 1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

##### 〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、社会学および社会心理学、文化人類学の知識と方法ならびに問題意識を融合的に活用し、自立した市民および職業人として個人と社会のために協働できる人材の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

##### 〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：社会学、社会心理学、文化人類学における主要な学説についての基礎的な理解を持ち、日本語や外国語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

資質・能力目標（２）：社会学、社会心理学、文化人類学のそれぞれの視点から、さらにはそれらを融合した視点から、人間、社会、文化にかかわる諸事象を捉え、分析し、説明する学問的成果についての理解を持ち、それを社会問題の解決に応用する力。

資質・能力目標（３）：質的・量的社会調査の方法を理解し、複数の方法を用いて資料の収集・整理・分析・解釈を行い、その内容について効果的なプレゼンテーションを行う力。

資質・能力目標（４）：以上のような知識に加え、人間、社会、文化にかかわる諸事象の様々な側面を探求し、その探求の過程と結果について適切に表現する力。

##### 〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

## 2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

### 〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）社会学専攻領域（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するための教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

### 〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（1）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、社会学、社会心理学、文化人類学の概論科目に加え、より専門的な各論科目や多様な特殊科目を設置する。

（2）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、学説および理論を学べる科目に加え、主要な社会調査法を身につける科目を置く。

### 〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準に基づいた直接的な指標により行われる。

### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（1）：社会学、社会心理学、文化人類学における主要な学説についての基礎的な理解を持ち、日本語や外国語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

→総合教育科目、必修外国語科目で身につけた学習の基礎的技能、言語運用能力をふまえ、社会学、社会心理学、文化人類学における主要な学説についての基礎的な知識を着実に身につけるための科目を置き、より専門的な学習を行うための基盤を形成する。

資質・能力目標（2）：社会学、社会心理学、文化人類学のそれぞれの視点から、さらにはそれらを融合した視点から、人間、社会、文化にかかわる諸事象を捉え、分析し、説明する学問的成果についての理解を持ち、それを社会問題の解決に応用する力。

→上記の学修成果をふまえ、人間、社会、文化の諸事象に関する社会学、社会心理学、文化人類学からの学問的成果を修得するための幅広い科目を置き、3つの学問に対する個別的学習のみならず、2つ以上の学問分野の融合的な理解を導き、社会問題への多角的な応用力を養う。

資質・能力目標（3）：質的・量的社会調査の方法を理解し、複数の方法を用いて資料の収集・整理・分析・解釈を行い、その内容について効果的なプレゼンテーションを行う力。

→専門教育科目において、人間、社会、文化の諸事象に関する様々な資料を収集・整理・分析・解釈するための妥当で信頼できる方法および技法を学べる科目を置き、自ら立てた問いを実証的に探求する機会を設ける。

資質・能力目標（4）：以上のような知識に加え、人間、社会、文化にかかわる諸事象の様々な側面を探求し、その探求の過程と結果について適切に表現する力。

→より限定的な領域における具体的な問題をめぐり、対話的、実習的、実践的に学習するよう指導し、卒業論文の作成を支援していく。

## [心理学専攻領域]

### 1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

#### 〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、心や行動を科学的に捉え、社会における人々の行動や反応を客観的に把握し、その背後にある原因や機構を深く理解することのできる人材の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

#### 〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：科学的視点による心や行動の捉え方、さまざまな現象の数値化、データ解析方法などの基礎を身につける。

資質・能力目標（２）：実験心理学に関する諸分野における専門的な基礎知識を身に付けるとともに、それらの実践・臨床応用的な視点を学ぶために、実験心理学以外の心理学関連科目の履修を通して、心をより俯瞰的な視野から捉えるスキルを修得する。

資質・能力目標（３）：グローバルな人材育成を目指し、国際的なジャーナルに掲載される論文を読み込む能力や、そこで必要とされる高い思考力を身につける。

資質・能力目標（４）：卒業論文の指導におけるディスカッションを通して高いレベルのプレゼンテーション能力を身につける。

資質・能力目標（５）：卒業論文の作成を通して、社会において役立つ、計画を立案し管理、実行する方法を学び、文章表現力や構成力を修得する。

#### 〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適切である。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

### 2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

#### 〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）心理学専攻領域（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

#### 〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、アクティブラーニングやPBLなどの教育法を組み合わせ教育を実施する。

（１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。

（２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目、実験科目などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

（３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

#### 〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、

全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

#### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：科学的視点による心や行動の捉え方、さまざまな現象の数値化、データ解析方法などの基礎を身につける。

→データ解析能力や実験技法の基礎を学ぶ専門教育科目を組み合わせることで履修することにより、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。

資質・能力目標（２）：実験心理学に関する諸分野における専門的な基礎知識を身に付けるとともに、それらの実践・臨床応用的な視点を学ぶために、実験心理学以外の心理学関連科目の履修を通して、心をより俯瞰的な視野から捉えるスキルを修得する。

→心理学に関する専門教育科目を組み合わせることで履修することにより、心理学の基礎および応用的な視点を育む。また、心理学専攻領域外の専門教育科目等の履修も可能とし、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標（３）：グローバルな人材育成を目指し、国際的なジャーナルに掲載される論文を読み込む能力や、そこで必要とされる高い思考力を身につける。

→総合教育科目、必修外国語科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能、着実な言語運用能力を身につけ、専門教育科目においてさらなる応用力を養う。

資質・能力目標（４）：研究会や発表会におけるディスカッションを通して高いレベルのプレゼンテーション能力を身につける。

→主として卒業論文の指導において、各自の研究テーマを探求し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究課程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

資質・能力目標（５）：卒業論文の作成を通して、社会において役立つ、計画を立案し管理、実行する方法を学び、文章表現力や構成力を修得する。

→卒業論文の指導や担当指導教員による指導を通じて、各自の卒業研究を立案・管理・実行する方法を学び、卒業論文にかかるディスカッションやフィードバックを通じて文章表現力や構成力を養う。

#### 〔教育学専攻領域〕

##### 1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

#### 〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、「教育」という視座から人間と社会の諸問題を学問的に探究することのできる人物の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

#### 〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：教育学の基礎に関する概括的知識とともに、教育学の主要分野である教育哲学、教育史学、教育心理学に関する基本的知識を獲得している。

資質・能力目標（２）：教育に関する諸問題を学問的に探究するための方法論の基礎を身につけている。

資質・能力目標（３）：「教育」という視座から考察すべき学問的問いを自らの関心に即して設定し、人間と社会の様々な問題の探究や解明を試みている。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力を身につけている。

#### 〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確であり、教育学上重要な問題について批判的に検討している。
2. 教育学上重要な主要理論、研究遂行に不可欠な先行研究を踏まえている。
3. 卒業論文の研究方法が、教育に関する諸問題を学問的に探究し、自身の設定した目的を達成するために適切かつ妥当である。
4. 卒業論文の内容が論理的で一貫している。
5. 論文の形式が学術論文として適切である。

## 2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

### 〈教育課程の編成〉

教育学専攻領域（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

### 〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- （1）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得をめざす科目を設置する。
- （2）教育学の重要な課題を自ら見出し、その解決を目指すための専門的な知識や技能を身につけるための科目を設置する。
- （3）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、先端的研究、理論、方法に触れるための科目を設置する。

### 〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（1）：教育学の基礎に関する概括的知識とともに、教育学の主軸分野である教育哲学、教育史学、教育心理学に関する基本的知識を獲得している。

→教育学の概説科目として「教育学」、教育学の主要な学問領域を学修するための科目として「教育思想史」（教育哲学分野）、「教育史」（教育史分野）、「教育心理学」（教育心理学分野）を設置し、教育に関する基本的・概括的知識を習得する。

資質・能力目標（2）：教育に関する諸問題を学問的に探究するための方法論の基礎を身につけている。

→「心理・教育統計学」（分析方法の修得）を設置し、教育学研究に関する専門的な方法論を習得する。

資質・能力目標（3）：「教育」という視座から考察すべき学問的問いを自らの関心に即して設定し、人間と社会の様々な問題の探究や解明を試みている。

→専門教育科目として、教育学の主軸分野に関わる「教育学概論」、「教育学特殊」、「教育心理学概論」を設置し、教育学上重要な諸理論についてより専門的に理解し、人間と社会にかかわる諸問題の探究や解明を試みる機会を設ける。

資質・能力目標（4）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力を身につけている。

→卒業論文指導により、各自の研究テーマを探求し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

## [人間科学専攻領域]

### 1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

### 〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の知識および方法論を修得しながら、人間についての総合的・多角的な理解を行い、現代社会における人間・社会・文化に関するさまざまな問題を分析・解決できる人材を育成することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

### 〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法についての基礎知識を修得していること。

資質・能力目標（２）：人間行動についての定量的・行動科学的な分析と、定性的・質的な分析の両方を行う能力、それらの能力を用いて自分で具体的な問題を分析できる能力を修得していること。

資質・能力目標（３）：分析結果をわかりやすく他者に説明・提示し議論できるプレゼンテーション能力と、それらを文章化して表現できる論文作成能力を修得していること。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を修得していること。

### 〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文あるいは卒業試験は、次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

## 2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

### 〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）人間科学専攻領域（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目ならびに専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

### 〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせる教育を実施する。

（１）人間を多角的にとらえるための認識論と方法論の基礎を学ぶために、総合教育科目に「社会学」「社会心理学」「心理学」「統計学」、専門教育科目に「文化人類学」を置く。

（２）心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法の基礎を学ぶために、専門教育科目に「社会学（専門）」、「社会心理学（専門）」、「文化人類学」を置く。

（３）人間科学に含まれる個別のテーマについて専門的な知識を修得すると同時に、自らの関心を深化させるための専門教育科目群として「心理学特殊」、「社会学特殊」、「社会心理学特殊」を置く。

（４）学修成果を総動員し、「卒業論文」を通じて、学生が自らの関心に基づいて研究論文の作成を行う。

### 〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基

準等に基づいた直接的な指標により行われる。

#### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法についての基礎知識を修得していること。

→総合教育科目「社会学」「社会心理学」「心理学」、専門教育科目「文化人類学」を通じて各分野の理論と方法について基礎知識を修得する。

資質・能力目標（２）：人間行動についての定量的・行動科学的な分析と、定性的・質的な分析の両方を行う能力、それらの能力を用いて自分で具体的な問題を分析できる能力を修得していること。

→専門教育科目群（「社会学（専門）」「社会学特殊」「社会心理学（専門）」「社会心理学特殊」「文化人類学」）を通じて、より専門的な知識と分析方法を学び、「卒業論文」における研究論文の作成を通じて、具体的な問題の分析能力を修得する。

資質・能力目標（３）：分析結果をわかりやすく他者に説明・提示し議論できるプレゼンテーション能力と、それらを文章化して表現できる論文作成能力を修得していること。

→「卒業論文」を通じて分析結果を理解しプレゼンテーションする能力を身に付け、発展させる。さらに研究論文執筆によって、分析結果を文章化して表現する論文作成能力を修得する。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を修得していること。あるいは、卒業試験において、同等の内容を提示する能力を修得していること。

→「卒業論文」を通じた研究論文の執筆によって修得する。

#### 【第2類】

文学部（通信教育課程）第2類では史学を主とした専攻領域を扱っており、所定の条件を満たした際には、「学士（史学）」の学位が授与されます。学生は、自らが希望する卒業論文のテーマを検討し、そのテーマに関係する専攻領域で求められることを踏まえ学修を進めるとともに、指導教員の指導のもとでテーマを掘り下げて卒業論文の執筆を進めていきます。

第2類で授与される学位の専攻分野と関係する専攻領域は次の通りです。

学士（史学）：日本史学専攻領域、東洋史学専攻領域、西洋史学専攻領域、民族学考古学専攻領域

所定の必要単位を修得したうえで、それぞれの専攻領域で求められること、卒業論文執筆の重点項目などを含んだ方針は次の通りです。

#### 学士（史学）

##### 【日本史学専攻領域】

#### 1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

##### 〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、歴史学を中心として広く様々な分野に即して学問の方法を学びつつ、特に日本史学の分野において、引き出した歴史情報を分析して新たな史実を実証的に掘り起こし、その成果を論理的に構成して発表する能力を培うことを目標とする。

そのため日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする日本語の卒業論文を執筆し、さらに卒業論文のテーマに関連する領域については包括的な専門知識を有し、その領域の研究に貢献をすることができる能力を培うことを目標とする。

加えて教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学

位を授与する。

#### 〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：通時代的な歴史像の把握の下に研究領域全般に関する知識を修得し、古文書などの史料から歴史情報を引き出すための史料批判を行い、史料を読解する力。

資質・能力目標（２）：学修の成果として、日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする卒業論文を執筆し、その領域の研究に貢献をすることができる力。

資質・能力目標（３）：生のデータの信頼性を確認した上で、それらを分析して論理的妥当性が認められる推論を導き出し、万人の納得を得られるような形でまとめ発表する力。

#### 〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 史料の取り扱いが適切であり、方法が目的に適切である。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

## 2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

#### 〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）日本史学専攻領域（学士：史学）では、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するにあたり、日本史の全体像を捉え、より深く理解するために「日本史概説」、「日本史特殊」、「古文書学」によって専門的領域を学ぶとともに、「史学概論」、「東洋史概説」、「西洋史概説」、「考古学」、「民族学」などから構成される日本史以外の学問領域についても学ぶことができるように、教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

#### 〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）日本史の全体像を捉えるための概説的な科目や、個別の時代やテーマに関する理解を深めるための科目を、スクーリングによる講義科目や、テキストに基づき学生が主体的に学ぶ科目として設置する。

（２）史料にアプローチし、学生が主体的に課題を見出し、その解決を目指すために、

幅広く各時代の史料に基づく研究成果を学ぶ科目を、スクーリング科目やテキスト科目として設置し、それを通して学生が主体的・能動的に研究する授業を拡充する。

（３）歴史学の学問体系について学ぶために、「史学概論」や、日本史以外の歴史学の学問的方法を体験するための概説など、広く様々な分野の学問体系に触れるための科目を履修する機会を設ける。

#### 〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

#### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：通時代的な歴史像の把握の下に研究領域全般に関する知識を修得し、古文書などの史料から歴史情報を引き出すための史料批判を行い、史料を読

解する力。

→日本史の全体像を捉えるための「日本史概説」や、個別の時代やテーマに関する理解を深めるための「日本史特殊」を開講する。また、幅広く各時代の史料に関する基礎知識を講義する「古文書学」や、それぞれの時代の研究成果を学び、研究への取り組みかたを学ぶ機会を、スクーリング科目・テキスト科目として設ける。

資質・能力目標（2）：学修の成果として、日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする卒業論文を執筆し、その領域の研究に貢献をすることができる力。

→論文執筆の能力を養うために、指導教員による指導に基づき、自らが主体的に研究した内容を報告し、それに基づく討論を経験することで、その領域の研究に貢献をすることができる力を涵養することを目指す。

資質・能力目標（3）：生のデータの信頼性を確認した上で、それらを分析して論理的妥当性が認められる推論を導き出し、万人の納得を得られるような形でまとめ発表する力。

→幅広く各時代の史料に関する基礎知識を講義する「古文書学」や、自らが主体的に取り組む研究について指導教員よりの指導を受け、データに基づき論理的な推論を発表する能力を育成する。

### **[東洋史学専攻領域]**

#### **1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）**

##### **〈教育目標〉**

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状に対する内在的かつ客観的な視座、着実な外国語の運用能力、歴史学を中心とする人文社会科学の分野横断的な知見などを備え、それらをもとに多文化間の相互理解の促進に貢献できる人物の養成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

##### **〈資質・能力目標〉**

資質・能力目標（1）：アジア・中東諸地域の立場や価値観を尊重しながら、その歴史や文化、現状に向き合う視座を身につけている。

資質・能力目標（2）：歴史学に加えて、隣接する人文社会科学の知見や手法もふまえて、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状を実証的かつ学際的な見地から理解する能力を身につけている。

資質・能力目標（3）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を身につけている。

##### **〈卒業論文における審査項目〉**

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

#### **2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）**

##### **〈教育課程の編成〉**

文学部第2類東洋史学専攻領域（学士：史学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

### 〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせる教育を実施する。

(1) アジア・中東諸地域に関する基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、総合教育科目、専門教育科目において、歴史学を主として学際的な内容を含む多様な科目群を設置する。

(2) アジア・中東諸地域の歴史と現状に関して自ら課題を発見し、その解決を目指す能力を身につけるため、主に面接授業（スクーリング）において、事前学習型授業のような学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

(3) アジア・中東諸地域に関する知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門教育科目において、専門的な知識や技能を習得する機会を設ける。

### 〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（1）：アジア・中東諸地域の立場や価値観を尊重しながら、その歴史や文化、現状に向き合う視座を身につけている。

→主に専門教育科目において、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状に関する基礎的な知識および専門的な学識を修得し、時代により異なるアジア・中東諸地域の立場や価値観を尊重する力を養う。

資質・能力目標（2）：歴史学に加えて、隣接する人文社会科学の知見や手法もふまえて、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状を実証的かつ学際的な見地から理解する能力を身につけている。

→東洋史学専攻領域以外の第2類の専門教育科目の履修を求めることに加え、第2類以外の専門教育科目の履修を可能とすることにより、歴史学全般および歴史学以外の人文社会科学に関する知見や手法を修得する機会を設ける。

資質・能力目標（3）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を身につけている。

→専門教育科目での学修成果をふまえ、学生は自らが設定した研究テーマを主体的に追究するとともに、指導教員による卒業論文指導を通じて当該研究テーマに関する客観的な視点を獲得しながら、新たな展望の提示に挑む力を養う。

### 〔西洋史学専攻領域〕

#### 1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

##### 〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、西洋世界およびそこから強く影響を受けた地域の過去を学ぶことを通じて、現代の「国際社会」の多くの側面を構成する価値観を理解するために十分な知識を獲得し、ひいては歴史学を通して現代社会の深層を見つめる知見と能力を得ることを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

##### 〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（1）：西洋世界およびそこから強く影響を受けた地域の歴史についての包括的な知識を持ち、現代の「国際社会」を構成する多様な価値観を理解する力。

資質・能力目標（2）：西洋史学の学術的な専門知識と、史料批判・読解などの歴史学の方法論を身につけたうえで、論理的な思考を行い、専門分野および社会における課題を導く力。

資質・能力目標（3）：自ら情報を収集する力、それを学問的に分析するために必要な外国語力と方法論を鍛え、自ら設定した課題に取り組み、効果的なプレゼンテーションを行う力。

資質・能力目標（4）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた学術的な展望を提示する力。

#### 〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

## 2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

### 〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）西洋史学専攻領域（学士：史学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

### 〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（1）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、外国語科目、歴史学の方法論を学ぶ科目、時代・地域を広くカバーする西洋史の概説的・専門的科目群を設置する。

（2）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、学生が自らの学習を進め、次第に高度な専門的学識や技能を習得することができるような専門教育科目群を設置する。

（3）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

### 〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（1）：西洋世界およびそこから強く影響を受けた地域の歴史についての包括的な知識を持ち、現代の「国際社会」を構成する多様な価値観を理解する力。

→西洋世界の過去についての概説的な知識を得るために、総合教育科目ならびに「西洋史概説」の履修を通して、その中にある多様性や多重性への理解を深める。また、歴史学が人間の生の全ての面を対象とする学問であることを鑑みて、専攻領域の科目群を軸としつつも、他専攻の専門科目の履修を通じ、各自が興味と関心に合わせて自らの学際空間を設計して学習を進める。

資質・能力目標（2）：西洋史学の学術的な専門知識と、史料批判・読解などの歴史学の方法論を身につけたうえで、論理的な思考を行い、専門分野および社会における課題を導く力。

→歴史学の理論と方法論の基礎を学び、歴史学そのものについて考える「史学概論」ならびに特定の時代・地域を個別テーマにもとづき探求する「西洋史特殊」の履修を通じて、高度な専門的学識や技能の習得を目指す。また、「日本史概説」および「東

洋史概説」の履修を通して、より広い文脈の中での歴史への理解を深める。  
資質・能力目標（3）：自ら情報を収集する力、それを学問的に分析するために必要な外国語力と方法論を鍛え、自ら設定した課題に取り組み、効果的なプレゼンテーションを行う力。

→外国語科目の履修を通じて、専門的な研究文献を講読する力をつける。また、卒業論文指導の過程で、学問研究の方法を実践的に学び、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。

資質・能力目標（4）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた学術的な展望を提示する力。

→各自の研究テーマを探究し、卒業論文指導の過程で行われるディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。卒業論文の執筆を通じて培った専門性や問題を解決する力を発揮し、論理的な思考と緻密な探究にもとづく自らの学術的な成果を表現する力を育成する。

### 〔民族学考古学専攻領域〕

#### 1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

##### 〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、民族学、考古学及び関連諸分野に関わる研究史、理論、分析方法を学び、具体的な研究に取り組むことにより、諸事象及び諸問題について歴史を軸とした幅広い視点から実証的に探究し、論理的に理解できる能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

##### 〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（1）：民族学や考古学あるいはそれらの関連分野の研究において必要となる研究史と理論に関する基礎的知識。

資質・能力目標（2）：個別のフィールドにおいて具体的な研究を実施するために必要な、調査、分析、コミュニケーションの能力。

資質・能力目標（3）研究の成果を、研究発表として効果的にプレゼンテーションし、合わせて学術論文（卒業論文）として論理的にまとめる能力。

資質・能力目標（4）：上記（1）～（3）のために必要な語学能力。

資質・能力目標（5）：大学卒業後のより高度な専門研究あるいは実社会の生活において、能動的に問題を発見し分析・解決する実践的能力。

##### 〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. フィールドワークも含めて、その研究方法が目的に合っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

#### 2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

##### 〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）民族学考古学専攻領域（学士：史学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

##### 〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

(1) 基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、民族学、考古学、関連諸分野に関わる科目群を設置する。

(2) 自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、テキスト科目、卒業論文指導などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

(3) 知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

#### 〈学修成果の評価方法〉

民族学考古学専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる

#### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)：民族学、考古学、あるいは関連分野の研究において必要となる研究史と理論についての基礎的知識。

→民族学、考古学、関連分野の基礎的知識を習得するための概論科目「考古学」「民族学」「人類学」を設置する。また、考古学の具体的な研究成果とその方法を学び、併せて学際的視野の習得を目指す、より専門性の高い科目群(「オリエント考古学」「西洋史特殊I」)を設置する。

資質・能力目標(2)：個別のフィールドにおいて具体的な研究を実施するために必要な、調査、分析、コミュニケーションの能力。

→フィールドでの調査方法、一次資料の分析方法、調査に必要なコミュニケーション能力については、卒業論文指導において指導する。加えて、教員によって組織される国内外の野外調査等への参加の道も確保する。資質・能力目標(3)：研究の成果を、研究発表として効果的にプレゼンテーションし、合わせて学術論文として論理的にまとめる能力。

→卒業論文指導において、プレゼンテーションとディスカッションによる問題解決を通し、論理的思考力と構成力、プレゼンテーション能力を養成するとともに、研究成果を卒業論文としてまとめることを目指す。

資質・能力目標(4)：上記(1)～(3)のために必要な語学能力。

→卒業論文指導において、卒業論文のテーマに関わる文献の講読を行う。

資質・能力目標(5)：大学卒業後のより高度な専門研究あるいは実社会の生活において、能動的に問題を発見し分析・解決する実践的能力。

→専攻の専門教育のカリキュラム全体での学び、及び卒業論文の執筆を通してこの資質・能力を高めることを目指している。

#### 【第3類】

文学部(通信教育課程)第3類では文学を主とした専攻領域を扱っており、所定の条件を満たした際には、「学士(文学)」の学位が授与されます。学生は、自らが希望する卒業論文のテーマを検討し、そのテーマに関係する専攻領域で求められることを踏まえ学修を進めるとともに、指導教員の指導のもとでテーマを掘り下げて卒業論文の執筆を進めていきます。

第3類で授与される学位の専攻分野と関係する専攻領域は次の通りです。

学士(文学)：国文学専攻領域、中国文学専攻領域、英米文学専攻領域、独文学専攻領域、仏文学専攻領域

所定の必要単位を修得したうえで、それぞれの専攻領域で求められること、卒業論文執筆の重点項目などを含んだ方針は次の通りです。

#### 学士(文学)

## [国文学専攻領域]

### 1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

#### 〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、国文学・日本語学にかかわる諸領域を対象として、広い視野から着実に文学・言語を理解し、得られた深い知見に基づき、文化の構築や社会の発展に資するための表現力及び論理的構成力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（文学）の学位を授与する。

#### 〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：国文学および日本語学、漢文学を中心に、学芸、習俗など広く日本文化の歴史と現在について専門知識を有し、厳密な研究方法を身につける。

資質・能力目標（２）：自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、独力でデータ・資料を収集し、オリジナルな分析・考察を行って課題を解決し、その成果を論理的・説得的に構成して自分のことばで発表できる。

資質・能力目標（３）：国文学・日本語学・日本文化を専門的に学び深く理解することを通して、それらと対照して異文化についても広く深く理解する視野をもつとともに、固定観念や偏見にとらわれず国文学・日本語・日本文化をも相対化してとらえることができる。

資質・能力目標（４）：大学で獲た知識や研究技法を基礎にして、生涯、学習を継続する姿勢をもつとともに、それらの知識・技法を、社会に出てから直面する多様な問題・課題を解決するために応用できる能力をもつ。

資質・能力目標（５）：学修の最終成果である卒業論文を独力で執筆できる。

#### 〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすことが求められる。

1. テーマ・問題意識が明確でかつ独自性がある。
2. 先行研究を踏まえている。
3. データ・資料を適切に読解・分析している。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

### 2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

#### 〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）国文学専攻領域（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

#### 〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。

（２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、テキスト科目やスクーリングなどにおいて、学生が主体となる能動的な授業を実施する。

（３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

#### 〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：国文学および日本語学、漢文学を中心に、学芸、習俗など広く日本文化の歴史と現在について専門知識を有し、厳密な研究方法を身につける。

→総合教育科目、必修外国語科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能、着実な言語運用能力を身につけ、専門教育科目において国文学・日本語学などについて、深い学びを可能にするための総合的学識・技術の獲得を目指す。

資質・能力目標（２）：自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、独力でデータ・資料を収集し、オリジナルな分析・考察を行って課題を解決し、その成果を論理的・説得的に構成して自分のことばで発表できる。

→総合教育科目、必修外国語科目での学修成果をふまえ、専門教育科目において、国文学・日本語学に関する基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標（３）：国文学・日本語学・日本文化を専門的に学び深く理解することを通して、それらと対照して異文化についても広く深く理解する視野をもつとともに、固定観念や偏見にとらわれず国文学・日本語・日本文化をも相対化してとらえることができる。

→専門教育科目において、国文学・日本語学に関わる幅広い知識を身につけるとともに、専攻外の専門教育科目等の履修も可能とし、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標（４）：大学で獲た知識や研究技法を基礎にして、生涯、学習を継続する姿勢をもつとともに、それらの知識・技法を、社会に出てから直面する多様な問題・課題を解決するために応用できる能力をもつ。

→専門教育科目において、国文学・日本語学領域における最新の研究成果を知り、その知見・技術と現代社会との結びつきについて理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標（５）：学修の最終成果である卒業論文を独力で執筆できる。

→卒業論文の指導を中心に、言葉や文学についての議論や分析を基礎として各自の研究テーマを探求し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

### 〔中国文学専攻領域〕

#### 1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

##### 〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、中国文化圏における「文（ことば）」にかかわる広大な領域を対象として、創立者福澤諭吉の「実学の精神」に基づき、実証的に真理を解明し問題を解決してゆく科学的な姿勢と知識および能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（文学）の学位を授与する。

##### 〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：中国文化圏を中心とする多様な文化や地域につながる幅広い教養を持ち、それを日本語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

資質・能力目標（２）：中国文学を中心とする人文社会科学の学術的な知識と、情報収集能力を身につけたうえで、論理的な思考を行い、効果的なプレゼンテーションを行う力。

資質・能力目標（３）：社会の中で中国文学を中心とした人文社会科学を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で行う力。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、中国文学を中心とする専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

### 〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文(卒業試験)は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

## 2. 教育課程編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

### 〈教育課程の編成〉

文学部 (通信教育課程) 中国文学専攻領域 (学士: 文学) は、「卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程 (カリキュラム) を体系的に編成する。

### 〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1) 基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、多様な科目群を設置する。
- (2) 自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3) 知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

### 〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標 (1) : 中国語圏を主とする多様な文化や地域につながる幅広い教養を持ち、それを日本語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

→総合教育科目、専門教育科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的スキルを身につけるとともに、さらなる応用力を養う。

資質・能力目標 (2) : 人文社会科学の学術的な知識と、情報収集能力を身につけたうえで、論理的に思考し、効果的なプレゼンテーションを行う力。

→専門教育科目において、主に中国語文化圏にかかわる文学等を中心とした基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標 (3) : 社会の中で人文社会科学を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で行う力。

→様々な科目を組み合わせることで履修することにより、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。また、他専攻領域の専門教育科目等の履修によって、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標 (4) : 学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

→主として卒業論文の指導において、各自の研究テーマを探求し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

[英米文学専攻領域]

## 1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

### 〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、英語学、英文学、米文学の分野の学修と研究を通じて、英語、英米文学の専門的な知識と研究方法を身につけ、専門分野の教養を活かして社会に貢献する人材を育成することを目的とする。

### 〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：日本語ならびに外国語（英語）を使用して正確な読解と適切な調査にもとづいた論理的な思考を展開し、他者と生産的な議論を行う力。

資質・能力目標（２）：外国語（英語）を使用して生産的な発信を行う力。

資質・能力目標（３）：英語という言語それ自体に対する関心・理解を深め、過去から現在に至る英語を使用した文化の特徴・歴史に関する知識を応用する力。

資質・能力目標（４）：英語を通じて異文化の他者と交流を持ち、共通の問題を解決していくための議論や実践する基礎的な力。

### 〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適合している。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

## 2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

### 〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）英米文学専攻領域（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

### 〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）英語学、言語学、イギリス・アメリカ文学の基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指す科目群を設置し、また他専攻領域の専門教育科目等の履修によって、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

他の類で扱う専門教育科目を横断的に学べる科目群を設置する。

（２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、テキスト科目、スクーリング科目、講義科目、研究の必要に応じた実験、フィールドワークなどにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

（３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に他の類で扱う専門教育科目群を履修する機会を設ける。

### 〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：日本語ならびに外国語（英語）を使用して正確な読解と適切な調査にもとづいた論理的な思考を展開し、他者と生産的な議論を行う力。

→テキスト科目や講義科目のレポート作成において、一次資料の深い読解に根差した論拠を挙げて意見を主張し、リサーチにより収集した適切な二次資料を用いながら自分の見解を他の専攻研究と比較検証しながら論じることができるよう指導する。

資質・能力目標（2）：外国語（英語）を使用して生産的な発信を行う力。

→テキスト科目でのレポート作成や卒業論文作成において、原書の正確な読解と深い考察を行うよう指導する。

資質・能力目標（3）：英語という言語それ自体に対する関心・理解を深め、過去から現在に至る英語を使用した文化の特徴・歴史に関する知識を応用する力。

→英語学、言語学、英文学、米文学の分野にわたるテキスト科目や講義科目を履修することを勧める。

資質・能力目標（4）：英語を通じて異文化の他者と交流を持ち、共通の問題を解決していくための議論や実践する基礎的な力。

→卒業論文の作成を通じて日本国内および海外での先行研究を踏まえた議論を行うよう指導する。

### **[独文学専攻領域]**

#### **1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）**

##### **〈教育目標〉**

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提とし、ドイツ語・ドイツ語文学を中心とする広大で多彩なドイツ語圏諸文化現象の探究を通じて、流動化する国際社会においてよりよく生きるための教養と学識、倫理的判断力と実践的能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める要件を満たした学生に対し、学士（文学）の学位を授与する。

##### **〈資質・能力目標〉**

資質・能力目標（1）：関連文献を通じて、ドイツ語学・文学研究ならびにドイツ語圏の文化現象全般に関する総合的知識を獲得し、この知識を基盤に当該領域に関する問題を発見・設定する力。

資質・能力目標（2）：ドイツ語文化圏の歴史的、文化的特性を理解することによって、日本語および日本文化を相対化する視点を獲得し、自文化に関する反省的思考を深め、これを通じて得られた異文化リテラシーを生かし、社会人として国際社会に貢献する力。

資質・能力目標（3）：明確な問題意識を持ち、自ら発見・設定した問題の解決に至る思考の過程を、先行研究を踏まえて論理的に記述した卒業論文を作成する力。

##### **〈卒業論文における審査項目〉**

学修の最終成果である卒業論文（卒業試験）は、次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

#### **2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）**

##### **〈教育課程の編成〉**

文学部（通信教育課程）独文学専攻 領域（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成し、かつ学生個々の関心領域に応じた学修が可能となるよう多様な専門教育科目を設置し、これらから構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

##### **〈教育課程の実施〉**

この教育課程の編成のもと、以下の通り教育を実施する。

(1) ドイツ語学、ドイツ文学、ドイツ文化学の領域に関して専門的知識を深めることができるようカリキュラム設計を行う。

#### 〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

#### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)：関連文献を通じて、ドイツ語学・文学研究ならびにドイツ語圏の文化現象全般に関する総合的知識を獲得し、この知識を基盤に当該領域に関する問題を発見・設定する力。

→文学および文学史についての概括的知識(「ドイツ文学史」、「ドイツ文学研究」)やドイツ言語学(「ドイツ語学文学」)、ドイツ小説史(「近代ドイツ小説」)、ドイツ演劇史(「近代ドイツ演劇」)等に関する科目を設置し、学生が個々の関心ないし問題意識に応じて学修を設計できるよう配慮する。

資質・能力目標(2)：ドイツ語文化圏の歴史的、文化的特性を理解することによって、日本語および日本文化を相対化する視点を獲得し、自文化に関する反省的思考を深め、これを通じて得られた異文化リテラシーを生かし、社会人として国際社会に貢献する力。

→ドイツ言語学分野の科目(「ドイツ語学文学」)は言語コミュニケーションの媒体としてのドイツ語を多様な視点から客体化しつつ探究することによって、同時に日本語および日本文化を相対化する視座を与える。

資質・能力目標(3)：明確な問題意識を持ち、自ら発見・設定した問題の解決に至る思考の過程を、先行研究を踏まえて論理的に記述した卒業論文を作成する力。

→学生はドイツ語圏文学・語学・文化についての幅広い基礎知識およびドイツ語圏研究の作法を基盤に、上記の専門教育科目群からそれぞれの関心に応じた領域の科目を主体的に選び、重点的かつ批判的に学修する。そして最終的には自ら問題を設定してこれを深く追究し、その成果を卒業論文にまとめあげる。

#### [仏文学専攻領域]

##### 1. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

#### 〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を前提として、フランスとフランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史を中心とする広大な領域を対象とし、多様化する国際社会で求められる教養の獲得を目標とする。加えて、教育課程において定める要件を満たした学生に対し、学士(文学)の学位を授与する。

#### 〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)：仏文学専攻領域での学びを通して、日本の文化を相対的視点から捉え直すとともに、フランス語圏の文化のみならず、広く異文化に対して関心と理解を示す社会人となり、多様化する国際社会に貢献する力。

資質・能力目標(2)：日本語およびフランス語の文献の読解、分析を通して、フランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史に関する総合的な知識を習得し、それをもとに日本語あるいはフランス語で自分の考えを論理的かつ効率的に説明する力。

資質・能力目標(3)：自ら関心を持つテーマを設定し、関連する先行研究を批判的に検証しながら、独自の視点で考察を掘り下げた卒業論文を執筆する力。

#### 〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適切である。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

## 2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

### 〈教育課程の編成〉

通信教育課程文学部第3類仏文学専攻領域（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

### 〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）各科目で定める目的に応じて、フランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史にかかわる広範な知識を伝え、あるいは、時代的にも主題的にも多岐にわたる、専門的な知見、思考法、発表技術を教授する。

（２）各科目で定める方針に応じて、特定の主題について論じながら、学際的な、他に開かれた視点も提供して知的探求心を刺激し、あるいは、学生個々に積極的な参加を促して、それぞれの段階を踏んで分析力や文章力を研磨するよう指導する。

（３）卒業論文作成を、学生が各科目で学修したことを応用して、独自の課題を発見し、それについて説得力のある論考をまとめる、集大成として位置づける。

### 〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

### 〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）仏文学専攻領域での学びを通して、日本の文化を相対的視点から捉え直すとともに、フランス語圏の文化のみならず、広く異文化に対して関心と理解を示す社会人となり、多様化する国際社会に貢献する力。

→フランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史への造詣を深めながら、それに隣接する他の文化圏や、翻って日本文化へも目を開かせ、世界の複雑な成り立ちを啓発する。

資質・能力目標（２）日本語およびフランス語の文献の読解・分析を通して、フランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史に関する総合的な知識を習得し、それをもとに日本語あるいはフランス語で自分の考えを論理的かつ効率的に説明する力。

→多様な形式と内容の文献を対象として、精緻に読み込み、そこから独自の主張を導き出し、その主張を口頭あるいは文章で説得力をもって訴える、という一連の作業を課して、個々の自発的な取り組みを督励する。

資質・能力目標（３）自ら関心を持つテーマを設定し、関連する先行研究を批判的に検証しながら、独自の視点で考察を掘り下げた卒業論文を執筆する力。

→指導教員が学生個々の特性、長所、短所に適切に対応し、それとともに、学生には自身の研究を自ら適切に評価、批判することを促して、独自性と普遍性を備えた卒業論文の完成へと導く。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：ホームページにて公表している。

<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html>）

（概要）

前項「卒業又は修了認定に関する方針」の（概要）に記載

<p>入学者の受入れに関する方針  (公表方法：ホームページにて公表している。  <a href="https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html">https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html</a>)</p>
<p>(概要)  文学部(通信教育課程)では次のような資質・能力を有する学生を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心</li> <li>・先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力(日本語、および英語・フランス語・ドイツ語・中国語)</li> <li>・与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力</li> <li>・現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識(日本史または世界史)</li> </ul> <p>これらは、文学部(通信教育課程)が設置しているすべての類(哲学を主とする第1類、史学を主とする第2類、文学を主とする第3類)に共通しており、入学後、それぞれの類における独自のカリキュラムに従って、専門的な知識や能力を身につけていきます。したがって、文学部(通信教育課程)に入学する者は、これらの類が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有することもまた必要です。</p> <p>以上の方針に基づき、入学選考を実施します。入学選考は書類選考によりますが、今後の学習勉学計画・研究計画について、明確なプランを持っていることが求められます。入学後、円滑に勉学を進めていくための、基本的な学力、とくにアカデミック・ライティングのために必要な日本語能力を求めます。</p>
<p>学部等名 経済学部</p>
<p>教育研究上の目的  (公表方法：ホームページにて公表している。  <a href="https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html">https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html</a>)</p>
<p>(概要)  経済学部の教育目的は、慶應義塾の建学の精神を踏まえつつ、各界で指導的役割を担う次世代の人材を養成することである。</p>
<p>卒業又は修了認定に関する方針  (公表方法：ホームページにて公表している。  <a href="https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html">https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html</a>)</p>
<p>(概要)  慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を前提として、総合教育科目、語学ならびに経済学全般に関する広い知識・理解力と経済学の特定専門分野に関する深い考察力を兼ね備えた者に、学士(経済学)の学位を授与する。経済学を一つの軸とする教養を備え、変化する社会を適切に認識し、日本社会をリードすると同時に世界で活躍できる能力を証するものとして学位を授与することを方針としている。</p> <p>資質・能力目標(1)：一般教養、語学ならびに経済学全般に関する広い知識・理解力と経済学の特定専門分野に関する深い考察力を養う。</p> <p>資質・能力目標(2)：経済学を一つの軸とする教養を備え、変化する社会を適切に認識し、日本社会をリードすると同時に世界で活躍できる能力を養う。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p>

(公表方法：ホームページで公表している。

<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html>)

(概要)

経済学部の通信教育課程は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、幅広い科目を用意している。

通学課程では経済学部と商学部がそれぞれ独立しているが、通信教育課程では経済学部の中で商学部系列の科目が履修できるようになっている。専門教育科目は必修科目と選択科目に分かれ、広い分野にわたって科目を履修することになる。

経済学部に設置されている各コースは、いずれも経済現象の理論的分析と実証的分析への基本的視点を提供するものとなっている。さらに経済現象を歴史的に捉えるために必要な経済史関係の科目、経済学の過去を振り返る学史・思想史関係の科目、人口・環境・都市と地域など社会関連の学際的な科目も多く配置している。

通信教育課程・経済学部の卒業には、総合教育科目（48単位）、専門教育科目（68単位）、卒業論文（8単位）の、合計124単位が必要である。

総合教育科目には（1）3分野科目（人文科学分野・社会科学分野・自然科学分野）、（2）必修外国語科目、（3）選択外国語科目、（4）保健体育科目がある。

専門教育科目は、マクロ経済学・ミクロ経済学・経済史等の必修科目と、他の選択科目で構成される。

この教育課程の編成のもと、通信授業（テキスト）や、面接授業（スクーリング）、メディア授業（E-スクーリング）などの教育法を組み合わせ教育を実施する。

経済学部の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。

資質・能力目標（1）：一般教養、語学ならびに経済学全般に関する広い知識・理解力と経済学の特定専門分野に関する深い考察力

「総合教育科目」の外国語科目は、単に言語を学ぶだけではなく、さまざまな考え方や感じ方、文化や教養などを身につけ、自分の世界を広げることを目的とする。外国語を学び、経済学を学ぶことで、世界を理解し、そして世界にむかって表現できる力を育成する。

3分野科目（人文科学分野・社会科学分野・自然科学分野）では、経済学という専門知識の習得のみならず、幅広い領域の知識と教養を身につけることを目的とする。知識の蓄積に加え、将来にわたり自らが進む道を支える智恵と技を体得することを目指す。

「専門教育科目」では、マクロ経済学・ミクロ経済学・経済史等を必修科目とし、経済学部におけるあらゆる専門分野を学んで行くに当たり必要となる土台をつくる。

資質・能力目標（2）：経済学を一つの軸とする教養を備え、変化する社会を適切に認識し、日本社会をリードすると同時に世界で活躍できる能力

「専門教育科目」では、基礎的な科目からはじまり、経済理論・計量経済、経済史・学史・思想史、経済政策、日本経済・国際経済、商業学・経営学・会計学、法律学と

<p>いった幅広い科目を提供している。これらは、必修科目の内容の理解を前提とし、各自の目標と関心に沿って履修する、発展的な内容の講義を含む。多くが、教員の専門分野に最も近い内容の科目であり、学生の自発性と意欲に従って、最新かつ水準の高い内容を学習できる科目群である。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針  (公表方法：ホームページにて公表している。  <a href="https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html">https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html</a>)</p>
<p>(概要)  通信教育課程としてはとくに次のような学生を求めている。  (1) さまざまな事情で、通学課程に通うことが困難であった人、あるいは現に困難な人。  (2) 職業生活を終えたが、その旺盛な向学心をさらに満たしたいと考えている人。  (3) 職業生活の途上で、自らの学歴を高度化することによって、職業的なステップアップを考えている人。  (4) 当該学部に入学するための一定の読書歴と、今後の勉学計画・研究計画について、明確なプランを持っている人。  (5) 入学後、円滑に勉学を進めていくための、基本的な学力、とくにアカデミック・ライティングのために必要な日本語能力を持っている人。  このような入学者を幅広く受け入れるため、書類選考により選抜を実施する。</p>

<p>学部等名 法学部</p>
<p>教育研究上の目的  (公表方法：ホームページにて公表している。  <a href="https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html">https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html</a>)</p>
<p>(概要)  法学部は、本塾建学の精神に則り、国際的な視野に立ちつつ新しい社会を創造し未来を先導する人材を育成すべく、法学および政治学の専門分野のみならず幅広い教養について教授研究することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了認定に関する方針  (公表方法：ホームページにて公表している。  <a href="https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html">https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html</a>)</p>
<p>(概要)  &lt;甲類&gt;  法学部通信教育課程・甲類は、慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、社会現象を法的な視点からとらえ、柔軟かつ的確に判断し、論理的に思考することのできる能力を涵養し、社会のさまざまな場面において主体的・積極的に活躍できる人材を育成することを目標としている。その目標を高い次元で達成して以下のような知識・姿勢・能力を獲得し、加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（法学）の学位を授与する。  (1) 専門分野の知識と技能の修得  法律学の専門知識を修得し、さまざまな社会事象・問題を精確かつ多面的に捉え、論理的に思考し、問題解決の方向性を示すことができる。  (2) 幅広い領域の知見・技能の修得  法律学のみならず、人文科学・社会科学・自然科学・外国語の広範な知見・技能をもって、専門と教養のバランスの取れた人間を育成し、学際的・発展的・創造的な思考を展開させ、また、活躍の領域を国際的にも広げることができる。</p> <p>&lt;乙類&gt;  法学部通信教育課程・乙類は、慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、個別の行為や現象を全体との関連で適切に位置づける</p>

能力、つまり組織の指導者に要求されるジェネラリストとしての資質の涵養を目標とする。その目標を高い次元で達成して以下のような知識・姿勢・能力を獲得し、加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（法学）の学位を授与する。

（１）専門分野の知識と技能の修得

政治学の専門知識を習得し、社会におけるさまざまな政治現象を、政治学はもとより、ひろく社会科学の視点から捉え、個別の行為や現象を全体との関連で適切に位置づけることができる。

（２）幅広い領域の知見・技能の修得

政治学のみならず、人文科学・社会科学・自然科学・外国語の広範な知見・技能をもって、学際的・発見的・創造的な思考を展開させ、また、活躍の領域を国際的にも広げることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（ホームページにて公表している。

<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html>)

（概要）

<甲類>

法学部通信教育課程・甲類（学士：法学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目と法律学専門科目から成る教育課程を体系的に編成する。

この教育課程の編成のもと、テキスト科目、メディア授業、スクーリングなどの教育法を組み合わせ教育を実施する。

この教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。

（１）法律学の専門知識と技能の修得のため、多くの専門科目を設置する。憲法、民法、刑法、商法をはじめとする日本の現行の六法分野にとどまらず、経済法や社会保障法、それに国際法や外国法、さらに法（正義）の理念や法学の方法論を学ぶ法哲学、そして法の歴史をひもとく法制史など、さまざまなアプローチからの法を学習できるようにする。

（２）専門と教養のバランスの取れた人間を育成するため、外国語科目、人文科学・社会科学・自然科学のさまざまな分野の科目を総合教育科目としてバランス良く配置する。

<乙類>

法学部通信教育課程・乙類（学士：法学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目と政治学専門科目から成る教育課程を体系的に編成する。

この教育課程の編成のもと、テキスト科目、メディア授業、スクーリングなどの教育法を組み合わせ教育を実施する。

この教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。

（１）政治学の専門知識と技能の修得のため、政治・社会現象を理解する分析方法やさまざまな理論を学びつつ、古代から現代にいたる政治史や政治思想史を、日本はもちろんのこと他の地域においても考察し、国際比較のなかで現代の政治課題を深く学習できる科目を設置する。それに加え、民法、国際法など、法律学を学習する専門科目も設置する。

（２）専門と教養のバランスの取れた人間を育成するため、外国語科目、人文科学・

社会科学・自然科学のさまざまな分野の科目を総合教育科目としてバランス良く配置する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：ホームページにて公表している。

<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html>)

(概要)

法学部通信教育課程の求める学生像は以下のとおりである。

- (1) 慶應義塾の建学の精神と法学部の教育目標をよく理解し、そのカリキュラムのもとで主体的・積極的に学習に取り組む姿勢を有している人
- (2) 社会のさまざまな事象を政治学的な視点から捉え、分析し、判断するための基礎的知見、論理的思考力、表現力を有している人
- (3) 国際的な視野に立ち、多様な価値観を受容しつつ、新しい社会を創造し先導する気概を有している人
- (4) 社会生活と通信教育課程における学習の両立を図る困難に打ち勝ち、職業生活の途上にあつて自らの学歴を高度化しさらなるステップアップをする意欲をもつ職業生活の途上にある人、又は、職業生活は終えたものの、さらに大学での学びを深めようとする意欲をもつ人

このような入学者を幅広く受け入れるため、出願書類にもとづく選考により選抜を実施する。

法学部に入学するための一定の読書歴と、今後の勉学計画・研究計画について、明確なプランを持っていることを、書類選考の中で確認し、評価対象とする。入学後、円滑に勉学を進めていくための、基本的な学力、とくにアカデミック・ライティングのために必要な日本語能力についても確認し、評価対象とする。

## ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：慶應義塾 Web「情報公開」ページにて公開している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1人	－					1人
文学部	－	91人	41人	0人	21人	0人	153人
経済学部	－	99人	35人	7人	18人	0人	159人
法学部	－	78人	22人	22人	4人	0人	126人
商学部	－	77人	29人	8人	4人	0人	118人
医学部	－	79人	70人	195人	380人	118人	842人
理工学部	－	155人	79人	31人	28人	0人	293人
総合政策学部	－	28人	18人	13人	0人	0人	59人
環境情報学部	－	31人	13人	9人	0人	0人	53人
看護医療学部	－	17人	7人	9人	15人	0人	48人
薬学部	－	24人	10人	14人	32人	0人	80人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		2,332人					2,332人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法：慶應義塾web「研究者情報・業績」により公表している。 <a href="https://www.keio.ac.jp/ja/research/researchers/">https://www.keio.ac.jp/ja/research/researchers/</a>						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	800人	793人	99.1%	3,200人	3,490人	109.1%	0人	0人
文学部（通信）	3,000人	201人	6.7%	12,000人	3,083人	25.7%	0人	0人
経済学部	1,200人	1,079人	89.9%	4,800人	5,391人	112.3%	0人	0人
経済学部（通信）	4,000人	177人	4.4%	16,000人	2,603人	16.3%	0人	0人
法学部	1,200人	1,193人	99.4%	4,800人	5,227人	108.9%	0人	0人
法学部（通信）	2,000人	129人	6.5%	8,000人	1,945人	24.3%	0人	0人
商学部	1,000人	1,016人	101.2%	4,000人	4,427人	110.7%	0人	0人
医学部	110人	111人	100.9%	660人	669人	101.4%	0人	0人
理工学部	932人	967人	103.8%	3,728人	4,022人	107.9%	0人	0人
総合政策学部	425人	376人	88.5%	1,700人	1,944人	114.4%	0人	0人

環境情報学部	425人	401人	94.4%	1,700人	2,023人	119.0%	0人	0人
看護医療学部	100人	103人	103.0%	415人	452人	108.9%	5人	3人
薬学部薬学科	150人	152人	101.3%	900人	903人	100.3%	0人	0人
薬学部薬科学科	60人	62人	103.3%	240人	278人	115.8%	0人	0人
合計	15,402人	6,760人	43.9%	62,143人	36,457人	58.7%	5人	3人
(備考)								
・2025年5月1日現在の学生数								
・入学定員は秋学期入学用の定員を含む								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	790人 (100%)	67人 (8.5%)	651人 (82.4%)	72人 (9.1%)
経済学部	1,136人 (100%)	42人 (3.7%)	955人 (84.1%)	139人 (12.2%)
法学部	1,158人 (100%)	145人 (12.5%)	922人 (79.6%)	91人 (7.9%)
商学部	973人 (100%)	25人 (2.6%)	849人 (87.2%)	99人 (10.2%)
医学部	108人 (100%)	1人 (0.9%)	104人 (96.3%)	3人 (2.8%)
理工学部	876人 (100%)	679人 (77.5%)	159人 (18.2%)	38人 (4.3%)
総合政策学部	396人 (100%)	40人 (10.1%)	300人 (75.8%)	56人 (14.1%)
環境情報学部	394人 (100%)	75人 (19.0%)	254人 (64.5%)	65人 (16.5%)
看護医療学部	103人 (100%)	9人 (8.7%)	89人 (86.4%)	5人 (4.9%)
薬学部 薬学科	138人 (100%)	16人 (11.6%)	113人 (81.9%)	9人 (6.5%)
薬学部 薬科学科	56人 (100%)	49人 (87.5%)	6人 (10.7%)	1人 (1.8%)
合計	6,128人 (100%)	1,148人 (18.7%)	4,402人 (71.9%)	578人 (9.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

### ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>通学課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>例年10月頃に次年度の授業担当者が決定するので、11月にシラバスの作成を依頼。翌年1月から3月にかけて編集し、授業科目の内容・目的・方法・授業計画ならびに成績評価方法などについて『シラバス（講義要綱）』として3月中旬を目途に公表している。</li> <li>閲覧方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>①在学生は Web の塾生サイトで ID とパスワードでログインし閲覧する。「塾生サイト」→「所属キャンパス」→「所属学部」→「時間割・シラバス・履修」ページ 例) 三田キャンパス <a href="https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/registration/">https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/registration/</a></li> <li>②一般向けには、表示項目の一部を除き公表している。 <a href="https://gslbs.keio.jp/pub-syllabus/search">https://gslbs.keio.jp/pub-syllabus/search</a></li> </ul> </li> </ul> <p>通信教育課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>例年、11月に次年度の授業担当者が決定し、12月にシラバスの作成を依頼。翌年1月から2月にかけて編集し、「講義要綱（シラバス）」として3月上旬に公表している。</li> <li>閲覧方法 一般および在学生向けに、慶應義塾通信教育課程 Web サイト (<a href="https://slbs.tsushin.keio.ac.jp/">https://slbs.tsushin.keio.ac.jp/</a>) で公開している。</li> </ul>
--

### ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>通学課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業科目の評価は試験やレポートの提出を課し、成績は、S・A・B・C・Dの5段階評価を持って示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与えている。また、学位認定については、履修科目で得た単位数に卒業論文の審査などにより取得した単位を加え、各学部学則に定める卒業必要単位数の充足をもって、各学部教授会が認定している。</li> </ul> <p>通信教育課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文学部：</li> </ul>
--

文学部(通信教育課程)では、学生が所属する「類」(第1類:哲学を主とするもの、第2類:史学を主とするもの、第3類:文学を主とするもの)、およびその中で扱われる専攻領域によって求められることが多少異なります。学生は、執筆を希望する卒業論文のテーマに関する専攻領域で求められることを踏まえ、指導教員の指導のもとで卒業論文の執筆を進めます。所定の要件を満たしたと認められる学生に対して、学士の学位が授与されます。

・経済学部：

総合教育科目、語学ならびに経済学全般に関する広い知識・理解力と経済学の特定専門分野に関する深い考察力を兼ね備えた者に学位を授与します。経済学を一つの軸とする教養を備え、変化する社会を適切に認識し、日本社会をリードすると同時に世界で活躍できる能力を証するものとして学位を授与することを方針としています。

・法学部：

法学部では所定の年限在学し、学則第11条に定める総合教育科目の所定の単位を修得し、かつ第74条の定める甲類(法律学を主とするもの)の科目ないしは乙類(政治学を主とするもの)のなかから所定の単位を修得した者に、学士の学位を与えます。自由科目は含まれません。

個々の科目の単位認定にあたっては、厳格な成績評価を行い、各々の科目に関する基礎的知識や技法が着実に取得されているか否かに留意するものとします。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部		128 単位	有・無	単位
文学部 (通信教育課程)		124 単位	有・無	単位
経済学部		126 単位	有・無	単位
経済学部 (通信教育課程)		124 単位	有・無	単位
法学部		136 単位	有・無	単位
法学部 (通信教育課程)		124 単位	有・無	単位
商学部		128 単位	有・無	単位
医学部		236 単位	有・無	単位
理工学部		138 単位	有・無	単位
総合政策学部		124 単位	有・無	単位
環境情報学部		124 単位	有・無	単位
看護医療学部		124 単位	有・無	単位
薬学部	薬学科	188 単位	有・無	単位
	薬科学科	126 単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：公表方法：慶應義塾 web「キャンパス」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

(通学課程) <https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/fees/>

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
文学部		960,000円	200,000円	300,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左記金額は初年度納付額。入学2年目以降は入学金を除く額を納付。</li> <li>・左記以外に、大学が代理徴収する学生健康保険互助組合費、研究会費等(3,350円～15,850円/年)を併せて納付。</li> <li>・その他には、在籍基本料、施設設備費、実験実習費が含まれる。</li> </ul>
経済学部		960,000円	200,000円	300,000円	
法学部		960,000円	200,000円	300,000円	
商学部		960,000円	200,000円	300,000円	
医学部		3,040,000円	200,000円	700,000円	
理工学部		1,390,000円	200,000円	440,000円	
総合政策学部		1,130,000円	200,000円	390,000円	
環境情報学部		1,130,000円	200,000円	390,000円	
看護医療学部		1,130,000円	200,000円	690,000円	
薬学部	薬学科	1,840,000円	200,000円	630,000円	
	薬科学科	1,540,000円	200,000円	630,000円	

(通信教育課程) <https://www.tsushin.keio.ac.jp/admissions/tuition.html>

2021年度以前入学者と2022年度以降入学者で学費体系が異なる。

<文学部・経済学部・法学部共通> 2021年度以前入学者

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
文学部		70,000円～	20,000円	15,000円～ 50,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左記金額は入学2年目以降の納付額。2021年度以前の入学者は、2021年度以前の入学時に入学金を支払済のため、左記の2025年度の学費には含まれない。</li> <li>・授業料部分は、教育費70,000円とスクーリング受講料(学生により納入額が異なる。メディア授業を含む。)5,000円～(履修単位数等により異なる)で表記。</li> <li>・その他には、在籍基本料、教材費(0円～20,000円)が含まれる。</li> <li>・左記以外に、卒業論文指導関連で在籍期間中に30,000円を納付。</li> <li>・在学所要年数(例:普通課程4年)経過後は、教育費の金額が変わる。</li> </ul>
経済学部		70,000円～	20,000円	15,000円～ 50,000円	
法学部		70,000円～	20,000円	15,000円～ 50,000円	

<文学部・経済学部・法学部共通> 2022年度以降入学者

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
-----	-----	-------------	-----	-----	------------

文学部		140,000 円～	30,000 円	15,000 円～ 30,000 円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左記金額は初年度納付額。入学2年目以降は入学金を除く額を納付。</li> <li>・授業料部分は、授業料140,000 円とスクーリング受講料（学生により納入額が異なる。メディア授業を含む。）5,000 円～（履修単位数等により異なる）で表記。</li> <li>・その他は、在籍基本料を指す。</li> </ul>
経済学部		140,000 円～	30,000 円	15,000 円～ 30,000 円	
法学部		140,000 円～	30,000 円	15,000 円～ 30,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学習に係る支援については、各学部・研究科の学習指導担当教員および学部担当職員が責任をもってこれにあたり、直接学生の相談に乗り、アドバイスを与え、留年者や休・退学者・成績不振者の状況把握とそれに基づく対応を行っている。</p> <p>経済的な支援については、大学独自の奨学金を80種類以上設置し、学生からの多様な経済的ニーズに応えている。大学独自の奨学金は全て返済の必要のない給付奨学金であり、卒業後の経済的負担を心配することなく勉学に励むことを可能にしている。また、学生寮の充実を図り地方や海外の学生が入学し易い環境を整えている。その中でも国際学生寮では留学生との交流を通じて高い国際性を身につけることも期待できる。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>個別相談、就職イベント（セミナー）、求人・就活関連情報提供により支援している。</p> <p>個別相談については原則として事前予約制とし、進路に関する相談全般、模擬面接、応募書類へのアドバイスが大まかなサービス内容となっている。</p> <p>就職イベント（セミナー）については、主に民間・公務への就職希望者を対象として、就職活動に関する総論、具体的な選考対策等の各論、外国人留学生・障害のある学生向けといった属性など幅広いテーマにて、全キャンパス合わせて年間100回程度行っている。</p> <p>求人・就活関連情報については、様々な企業・団体から届く求人票、就職・キャリア関連イベント、インターンシップ、資格試験等の情報を提供している。また、OB・OG訪問のための卒業生検索システムや、就職活動を終えた先輩学生より寄せられた就職活動体験記を閲覧できるシステムを整備している。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>心身の健康に対しては、各地区に、医師・保健師が常在する保健管理センター、臨床心理士または公認心理師の資格を有するカウンセラーが常在する相談窓口（日吉・三田・矢上・芝共立では「学生相談室」、信濃町では「ストレス・マネジメント室」、湘南藤沢では「心身ウェルネスセンター」）を設置している。学生相談室では、学生生活上の諸問題に関する相談に応じ、カウンセリングを通して健全な心身の発達と学生生活の向上を図ることを目的に、対面、電話、オンラインでの個別相談およびグループワーク等による支援を行っている。</p> <p>生活支援や生活指導に関しては、「学生教育研究災害傷害保険」に加入し、正課・課外活動中の事故等へ対応するとともに、飲酒事故・薬物使用・各種トラブル防止のため、外部講師を招いたセミナー開催、リーフレット配布、ガイダンス、e-learning 科目等により啓発を行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：慶應義塾 web「教育」、「研究」ページにて公表している。

「教育」<https://www.keio.ac.jp/ja/academics/>

「研究」<https://www.keio.ac.jp/ja/research/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(任意記載事項) 総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み

総合政策学部、環境情報学部においては、予測困難な時代に対応しうる、「未来を創造する先導者」を養成することをその理念に掲げており、文理融合的な2つの学部を横断しながら、アクティブラーニングを中心とした実践的な学修を行うことによって実社会が抱える問題を発見し、課題を解決するための論理的な思考力を身につけ、学際的・領域横断的な視点を涵養することを目的としている。

以上